

(案)

資料 5-2

第3期

江東区 スポーツ推進計画

令和7年度～令和11年度



はじめに

スポーツは、体力の維持・向上だけでなく、こどもたちの健やかな育成や生きがいづくり、つながりの形成、地域コミュニティの活性化など、様々な力を持っています。

江東区ではこれまで、平成27年3月に策定した「江東区スポーツ推進計画」、令和2年3月策定の第2期計画のもと、豊かなスポーツ資源や水辺環境などの区の特徴を生かしながら、区民スポーツの普及振興に取り組んでまいりました。



こうした中、新型コロナウイルスの感染拡大は、当たり前の日常を奪い、区民スポーツにおいても、施設の利用制限や大会の中止など、多大なる影響を及ぼしました。

一方で、1年遅れで開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、残念ながら無観客開催となったものの、世界のトップアスリートの懸命な姿は、私たちに多くの感動を与えました。昨夏のパリ大会でも、江東区ゆかりの選手の活躍もあり、あらためて、スポーツの持つ力やスポーツの素晴らしさを実感する機会となりました。

もちろん、スポーツは勝敗や記録を競うものだけではありません。散歩やサイクリング、ラジオ体操など、体を動かすことを意識して行う運動もスポーツに含まれます。

また、スポーツを「する」だけでなく、スポーツの試合を「みる」やボランティアとしてスポーツを「ささえる」など、スポーツとの関わり方は広がってきています。

この度策定した「江東区スポーツ推進計画(第3期)」では、区民のみなさんが、年齢や性別、障害の有無に関わらず、自分のスタイルでスポーツに親しみ、スポーツを通じて心身ともに豊かになれる、「ウェルビーイング」な地域社会の実現を目指します。

計画期間中には、世界陸上やデフリンピックなどの大規模なスポーツイベントも開催されます。こうしたスポーツを取り巻く機運も機敏に捉えて、スポーツやパラスポーツに対する興味関心をより一層高めていきます。

計画の推進にあたっては、スポーツ推進委員会やスポーツ協会、トップスポーツチームなどの関係団体と連携しながら、区のスポーツ振興に一丸となって取り組んでいきます。

結びに、本計画の策定にあたりご尽力をいただいた江東区スポーツ推進計画改定委員会の委員の皆様をはじめ、貴重なご意見をお寄せいただきました区民・関係団体の皆様に、心より感謝を申し上げます。

令和7年3月

江東区長
大久保朋果

目次

第1章 計画の概要	1
1 計画策定の考え方	3
2 計画策定の社会的背景	3
3 本計画の位置づけ	4
4 計画期間	4
第2章 スポーツをとりまく現状と課題	5
1 計画策定の考え方	7
(1) 国の動向	7
(2) 東京都の動向	8
2 スポーツをとりまく区の動向	9
(1) 人口推移と将来人口推計	9
(2) 江東区長期計画（令和2年度～11年度）	10
3 区内の主なスポーツ施設	11
4 区民のスポーツ活動の実態	12
(1) 成人のスポーツ活動について	12
(2) こどものスポーツ活動について	16
(3) 区内のスポーツ関係団体等の活動について	18
5 区のスポーツをとりまく課題と対応	19
第3章 具体的な施策展開	21
1 基本理念	23
2 基本目標	24
3 数値目標	25
4 本計画におけるスポーツの定義	25
5 施策の体系	26
基本目標1 スポーツをする機会の創出	28
基本目標2 スポーツをする環境の充実	32
基本目標3 スポーツをみる楽しさの発信	35
基本目標4 スポーツをささえる人材・団体の活躍促進	38

第4章 計画の推進にあたって 41

1 計画の進行管理	43
2 計画の推進体制	43
(1) 区民	43
(2) 江東区	43
(3) 指定管理者（スポーツ施設）	44
(4) 公益財団法人江東区健康スポーツ公社	44
(5) 江東区スポーツ協会	44
(6) 江東区スポーツ推進委員会	44
(7) 地域スポーツクラブ	44
(8) トップスポーツチーム、トップアスリート	44

第5章 参考資料 45

1 スポーツ推進に関する各種調査結果	47
(1) 区民アンケート	47
(2) 障害のある方のアンケート	54
2 江東区スポーツ推進計画策定までの経過	57
(1) 江東区スポーツ推進計画改定委員会委員名簿	57
(2) 江東区スポーツ推進計画改定委員会設置要綱	58
(3) 江東区スポーツ推進計画改定委員会開催経過	60
(4) パブリックコメントの実施結果	60

【用語の表記について】

本計画では、下記のように表記しています

※「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」→「東京 2020 大会」

※「区立小学校・義務教育学校（前期課程）」→「区立小学校」

※「区立中学校・義務教育学校（後期課程）」→「区立中学校」

第1章 計画の概要

1 | 計画策定の考え方

江東区では平成 27 年 3 月に「江東区スポーツ推進計画」を策定し、区民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに親しめる環境整備に取り組んできました。

また、令和 2 年 3 月には新たな「江東区スポーツ推進計画（第 2 期）」を策定し、東京 2020 大会を契機としたスポーツ振興と、伝統的に受け継がれてきた下町人情や発展を続ける臨海部など、区の魅力・強みを生かしたスポーツ施策を推進してきました。

そして、この度、令和 4 年 3 月に国が策定した「第 3 期スポーツ基本計画」や「東京都スポーツ推進総合計画」、「江東区長期計画」の考え方などを踏まえ、前計画の取り組みを継承しつつ、区民スポーツのさらなる普及振興を図るため、「江東区スポーツ推進計画（第 3 期）」を策定しました。

2 | 計画策定の社会的背景

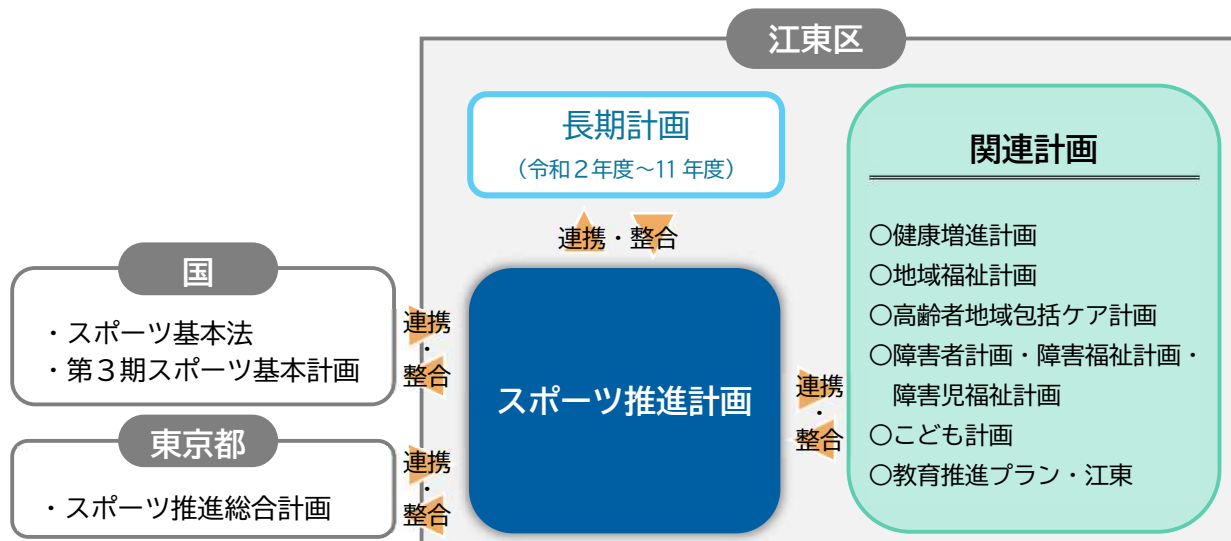
スポーツには、体を動かすという人間の本質的な欲求を満たすことで、体力の向上、ストレスの発散、健康の維持・増進など、心身両面にわたる健康の保持と向上が期待されます。加えて、チームによる活動や仲間づくり、応援やサポートを通じて心を育み、生活や地域社会を豊かにする力も持っています。また、障害者スポーツについても、共生社会の実現に向けた重要な手段として位置づけられています。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の流行は、スポーツをとりまく環境に大きな変化をもたらしました。練習や大会の中止に加え、仲間と集う機会も制限され、スポーツに親しむ機会が一気に失われることとなりました。新たな生活様式にあわせてスポーツの在り方を模索する中で、令和 3 年に開催された東京 2020 大会では、残念ながら無観客開催となりましたが、世界中から集まったトップアスリートが日本全体に感動を与え、スポーツの意義を再認識する機会となりました。

今後開催が予定されている、東京 2025 世界陸上や東京 2025 デフリンピック大会などのメガ・スポーツイベントに向けて、スポーツに対する関心がさらに高まっている中、社会環境の変化や価値観の多様化により新しいスポーツの楽しみ方も広がりつつあり、スポーツをとりまく状況は大きな変革を迎えています。

3 | 本計画の位置づけ

本計画は、上位計画である「江東区長期計画」の下、関連計画や国、東京都との整合を図ったうえで、区のスポーツに係る基本計画として策定します。



4 | 計画期間

本計画の計画期間は令和7年度から令和11年度までの5年間とします。

	令和2 (2020)	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)	令和6 (2024)	令和7 (2025)	令和8 (2026)	令和9 (2027)	令和10 (2028)	令和11 (2029)
江東区長期計画	10年間									
江東区スポーツ推進計画	第2期					第3期（本計画）				

第 2 章 スポーツをとりまく現状と課題

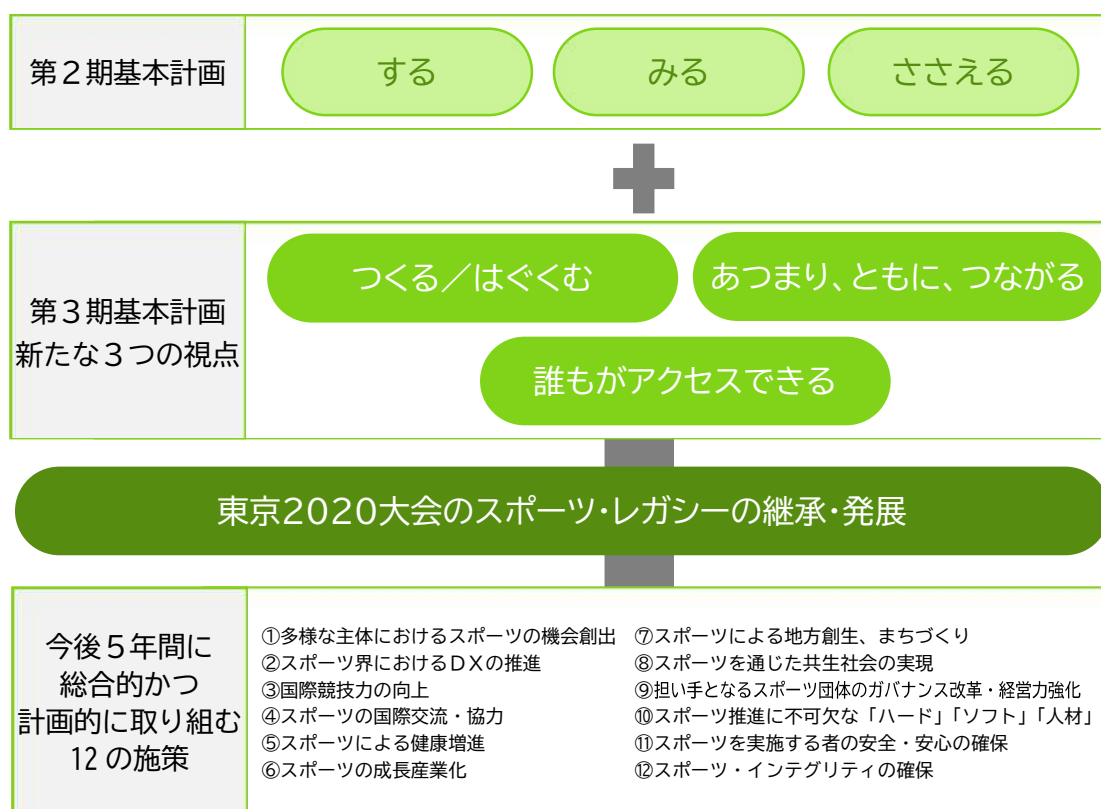
1 | 計画策定の考え方

(1) 国の動向

国では、令和4年3月に「第3期スポーツ基本計画」が策定されました。第2期計画の「中長期的なスポーツ政策の基本方針」を踏襲しつつ、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」ことを真に実現できる社会を目指すため、「つくる／はぐくむ」、「あつまり、ともに、つながる」、「誰もがアクセスできる」という3つの新たな視点を加えるとともに、東京2020大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に向けた総合的かつ計画的に取り組む12の施策が示されています。

また、同計画の中ではスポーツ実施率について、成人の週1回以上のスポーツ実施率が70%程度、障害者は40%程度を目指すことを目標に掲げています。

<第3期スポーツ基本計画の全体像>



出典：スポーツ庁「第3期スポーツ基本計画」より作成

(2) 東京都の動向

東京都では、本計画と同じく令和7年3月に「(次期)東京都スポーツ推進総合計画」が策定されました。

スポーツをとりまく環境変化やスポーツの意義・価値を捉え、「誰もがスポーツを楽しむ東京を実現し、一人ひとりのウェルビーイング※を高め、社会を変革する」を基本理念とし、将来目指す「世界に誇るスポーツフィールド・東京」の姿を4つのビジョンとして設定しています。また、政策の柱として「スポーツで輝く」、「スポーツでつながる」、「スポーツでにぎわう」、「スポーツを支える」が示されており、都民一人ひとりのウェルビーイングの向上と、社会全体の幸福度の最大化を実現することを目指す計画となっています。

<(次期)東京都スポーツ推進総合計画の全体像>

基本理念	誰もがスポーツを楽しむ東京を実現し、一人ひとりのウェルビーイングを高め、社会を変革する			
将来のビジョン	ビジョンⅠ 子供の頃から好きなスポーツと出会い、楽しみ、成長し、健康・幸福に生きている	ビジョンⅡ スポーツを通じた新たなつながりと相互理解が、技術の進展に伴い生み出されている	ビジョンⅢ 世界中のアスリートや観客でにぎわい、世界で最も魅力的で選ばれる都市に	ビジョンⅣ 安全・安心・信頼の下、いつでもスポーツを楽しめる社会が実現
4つの政策の柱	健康・幸福	共生社会	地域・経済活性化	スポーツの持続可能性
	スポーツで 輝く	スポーツで つながる	スポーツで にぎわう	スポーツを 支える
	施策① スポーツに触れる「はじめの一歩」を後押し	施策① パラスポーツを楽しむ・パラスポーツで輝く	施策① 都内各地でスポーツイベントを開催し、都市に活力をプラス	施策① 様々な価値を創出するスポーツ環境の整備・運営や、環境に配慮した施設・大会運営
	施策② ライフステージに応じたスポーツを推進	施策② バリアフリー化やユニバーサルコミュニケーション技術の社会実装を促進	施策② 住み慣れた地域でのスポーツをサポート	施策② 多様な主体と連携し、スポーツに関わる人材の裾野を広げる・磨く
	施策③ 東京にゆかりのあるアスリートが躍動	施策③ 多様な人々がスポーツでつながる、スポーツとつながる	施策③ スポーツの魅力を発信し、スポーツを通して感動を味わう	施策③ 安心・安全なスポーツ、信頼されるスポーツ大会の実現

出典：東京都「(次期)東京都スポーツ推進総合計画」中間まとめ<概要版>」より作成

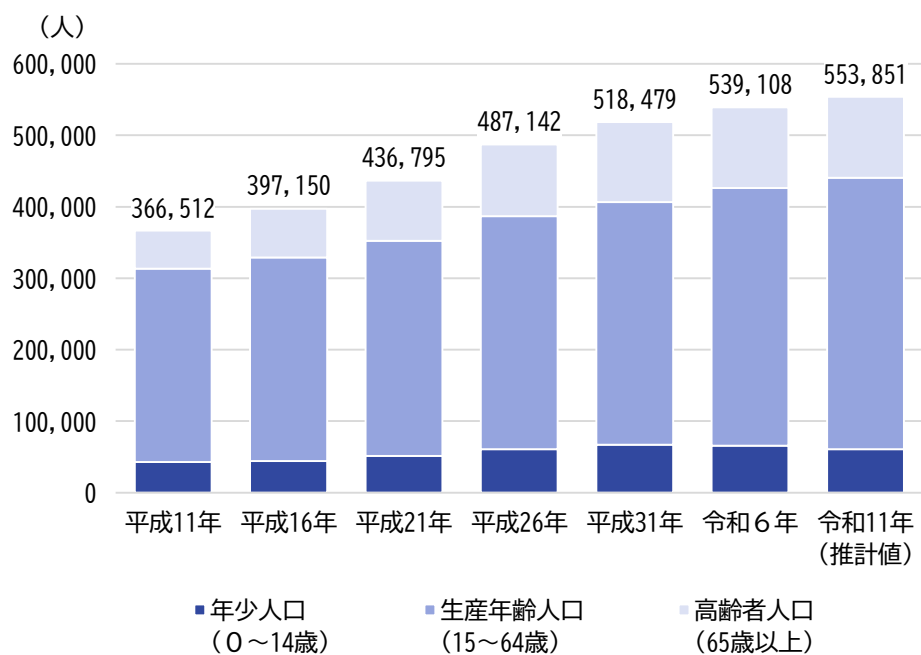
※ ウェルビーイング：心身ともに健康で、社会的にも満たされた状態にあること

2 | スポーツをとりまく区の動向

(1) 人口推移と将来人口推計

江東区の人口は増加傾向にあり、この25年間で約17万人の増となっています。

今後も人口増加は継続し、令和11年の将来推計人口は55万人を超えることが見込まれています。



出典：住民基本台帳人口（各年1月1日現在）※令和6年まで
江東区長期計画 ※令和11年

(2) 江東区長期計画（令和2年度～11年度）

江東区長期計画とは、区のまちづくりと区政運営の具体的指針となるものであり、この計画に基づいて様々な施策を推進しています。同計画の中で、区のスポーツ振興に関する施策の方向性を定めています。

大綱3 区民の力で築く元気に輝くまち 施策14 スポーツを楽しめる環境の充実

目指す姿

こどもから高齢者まで世代や障害の有無にかかわらず、身近にスポーツを楽しむ機会と環境が確保され、スポーツの持つ力により、誰もが生き生きと暮らせる地域社会が形成されています。

取組方針

1. 区民のスポーツ活動の促進

- こどもから高齢者まで世代や障害の有無にかかわらず、区民がスポーツ活動を楽しめるよう、スポーツイベントやスポーツ教室の開催など、スポーツに親しむきっかけづくりを推進します。
- 障害者スポーツに対する理解促進を図り、障害者のスポーツ活動を促進します。
- スポーツ団体との連携を図るとともに、区民がスポーツ観戦等スポーツと多様な関わりができるよう、取り組みます。
- ソフト面における東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーを活用し、区民のスポーツに対する意識向上を図ります。

2. スポーツをしやすい環境の整備

- 区立スポーツ施設や設備の充実、利便性の向上を図り、誰もがスポーツをしやすい環境整備に取り組みます。
- ハード面のレガシーである東京2020オリンピック・パラリンピック競技会場等の都立スポーツ施設等と連携するとともに、各施設の有効活用を図ります。

3 | 区内の主なスポーツ施設



4 | 区民のスポーツ活動の実態

(1) 成人のスポーツ活動について

I. アンケート実施概要

■区民アンケート

調査対象	区内在住の18歳以上の男女2,500名（無作為抽出）
調査期間	令和6年6月12日～7月12日
調査方法	郵送による配布、郵送および電子回答
周 知	区報（6月11日号）・区ホームページにて周知
回 収 数	880票（うちオンライン回答：422票）、35.2%
調査項目	・スポーツ実施状況について ・今後やりたいスポーツ・運動について ・地域スポーツ振興について ・パラスポーツ（障害者スポーツ）について ・スポーツ・運動に関するボランティアについて ・スポーツ・運動に関する情報について ・トップスポーツチーム連携協定団体について ・学校部活動の地域移行について ・今後のスポーツ振興・推進について

■障害のある方のアンケート

調査対象	区内在住の障害のある18歳以上の男女（挙手制）
調査期間	令和6年6月12日～7月12日
調査方法	電子回答
周 知	区報（6月11日号）・区ホームページでの周知に加え、区内障害者通所支援施設・障害者施策課窓口にて周知チラシ配布
回 収 数	125票
調査項目	・障害のある方のスポーツ実施状況について ・障害のある方の今後やりたいスポーツ・運動について

Ⅱ. アンケート結果(抜粋)

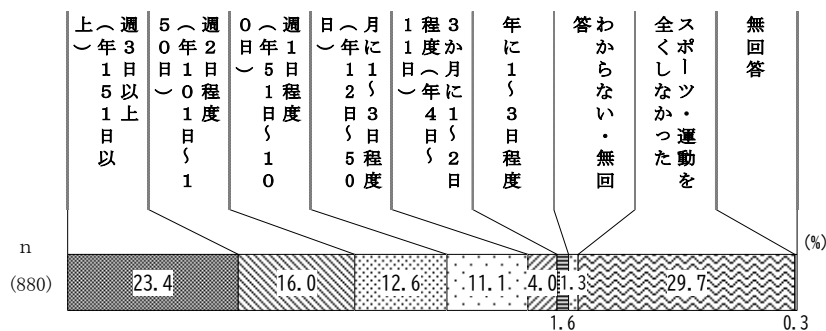
①区民のスポーツ実施率について【「する」スポーツ】

令和6年度に実施した「スポーツ推進に関するアンケート調査」において、運動不足を感じている（「どちらかといえば運動不足を感じている」もしくは「運動不足を感じている」）と回答した区民の割合は7割を超えています。

また、成人の週1日以上スポーツ実施率は52.0%となっており、令和元年度の調査（43.5%）より8.5ポイント増加しました。一方で、「スポーツ・運動を全くしなかった」と回答した区民の割合は全体の約3割となっています。

性・年齢別に週1日以上スポーツ実施率をみると、男女とも全体では5割を超えており、男性10～20歳代、70～79歳、女性70歳以上で6割を超えています。一方、男女とも30～40歳代でスポーツ実施率が低く、特に女性30歳代では3割未満となっています。

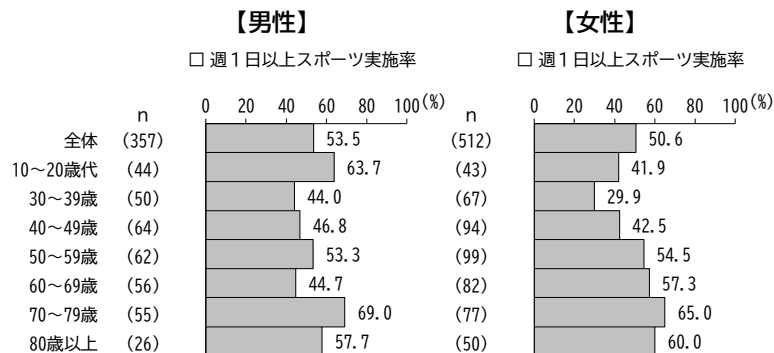
<スポーツ・運動の実施頻度>



参考

国 : 52.0% ※20歳以上（スポーツ庁「令和5年度 スポーツの実施状況等に関する世論調査」）
東京都 : 66.3% ※18歳以上（東京都「令和5年度 都民のスポーツ活動に関する実態調査」）

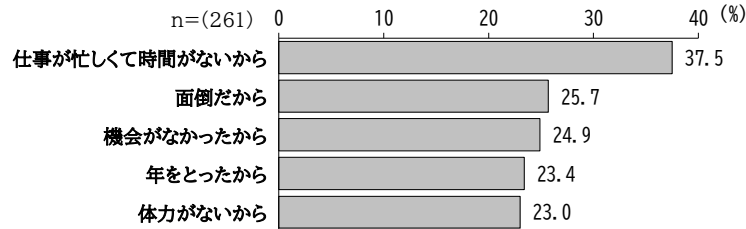
<スポーツ・運動の実施頻度(性・年齢別)>



第2章 スポーツをとりまく現状と課題

スポーツ・運動をしなかった理由は、「仕事が忙しくて時間がないから」が37.5%と最も多く、次いで「面倒だから」が25.7%、「機会がなかったから」が24.9%となっています。

<スポーツ・運動をしなかった理由(上位5項目)>



②障害者のスポーツ実施率について【「する」スポーツ】

障害者の週1日以上スポーツ実施率は48.8%となっている一方で、「スポーツ・運動を全くしなかった」は28.0%となっています。

<スポーツ・運動の実施頻度(障害者)>



スポーツ・運動をしなかった理由は、「自分に合ったスポーツや運動の情報がない」が45.7%と最も多く、次いで「身近なところにスポーツや運動ができる場所がない」が31.4%、「一緒にできる仲間がいない」が28.6%となっています。

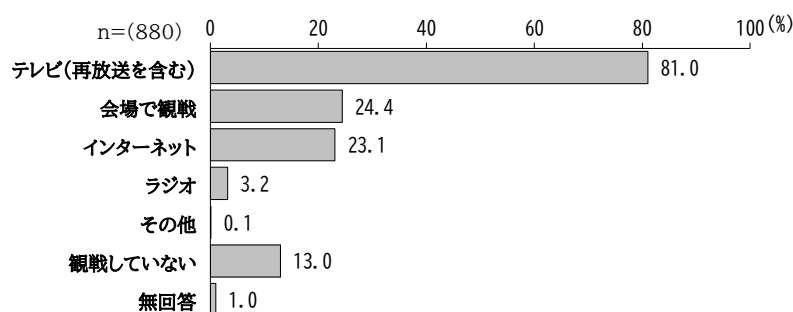
<スポーツ・運動をしなかった理由(上位5項目)>



③スポーツの観戦状況について【「みる」スポーツ】

この1年間で、何かしらの形でスポーツを「みた」と回答した割合は 86.0%となっています。そのうち、「テレビ（再放送を含む）」が 81.0%と最も多く、次いで「会場で観戦」が 24.4%となっています。

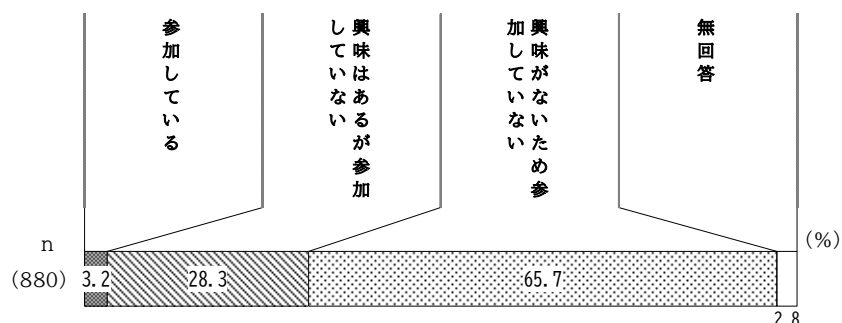
<1年間のスポーツ観戦の有無>



④スポーツ・運動に関するボランティアについて【「ささえる」スポーツ】

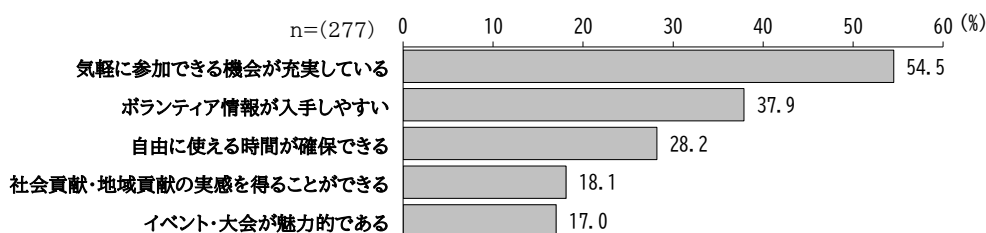
スポーツ・運動に関するボランティアに関心がある（「参加している」もしくは「興味はあるが参加していない」）と回答した区民の割合は 31.5%となっています。

<スポーツ・運動に関するボランティアの参加状況>



ボランティアに関心があると回答した人に、ボランティアをするために重要なことを聞いたところ、「気軽に参加できる機会が充実している」が 54.5%と最も多く、次いで「ボランティア情報が入手しやすい」が 37.9%となっています。

<スポーツ・運動に関するボランティアをするために重要なこと(上位5項目)>



(2) こどものスポーツ活動について

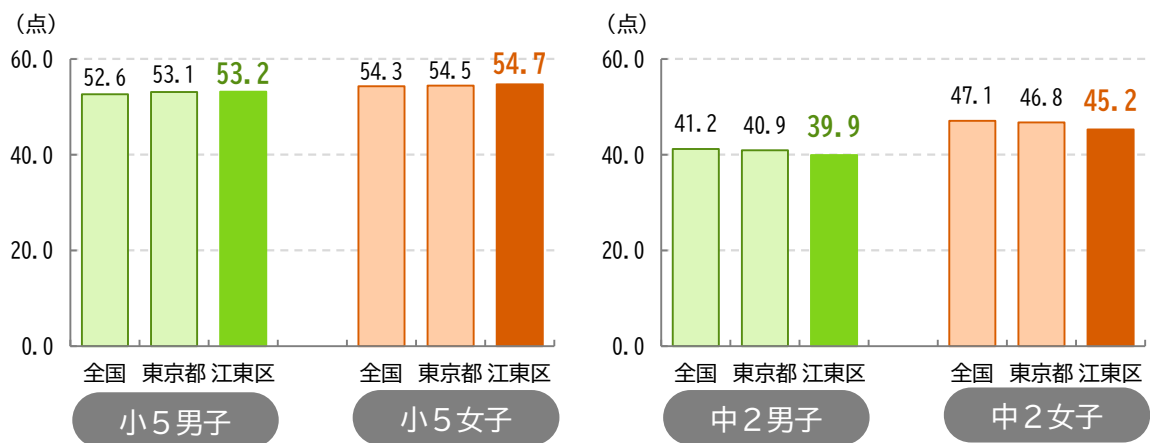
①こどもの体力・運動能力

こどもの体力・運動能力の現状把握を目的に、国では「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」、東京都教育委員会では「東京都統一体力テスト」を実施しています。

令和5年度の体力合計点※をみると、江東区の小学校5年生は男女とも全国および東京都と同水準となっています。一方で、中学校2年生は男女とも全国および東京都よりもやや低くなっています。

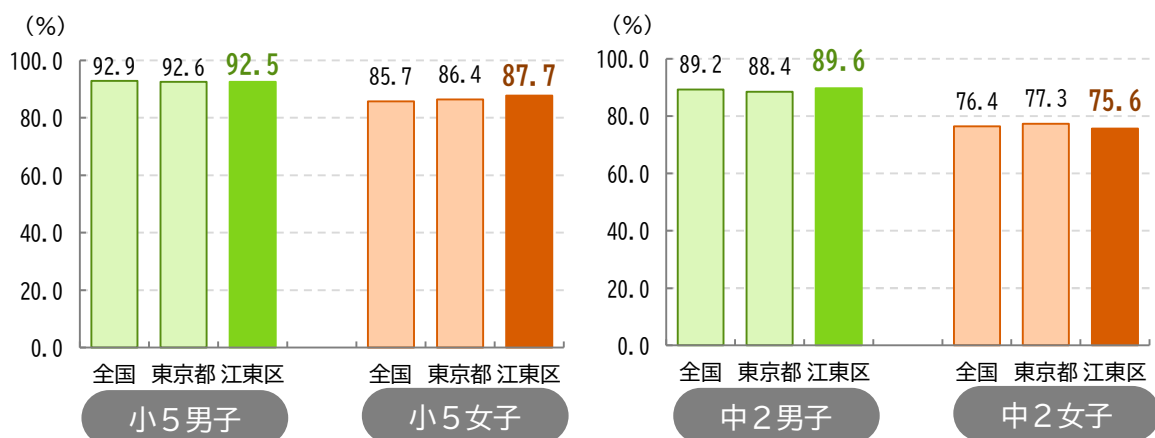
また、運動やスポーツをすることが好き（「好き」もしくは「やや好き」）と回答した割合は、小学校5年生男子は全国および東京都と同水準となっていますが、小学校5年生女子、中学校2年生男子はやや高く、中学校2年生女子はやや低くなっています。

<体力合計点の平均点>



出典：スポーツ庁「令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」
東京都教育委員会「令和5年度 東京都統一体力テスト」

<運動やスポーツをすることが好き>



出典：スポーツ庁「令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」
東京都教育委員会「令和5年度 東京都統一体力テスト」

※ 体力合計点：50m走や上体起こしなど、実技テスト項目（8種目）における得点の合計

②こどもへのアンケート調査結果

令和6年5月、区内在住の小・中学生を対象としたアンケート調査を実施しました。

調査対象	区内在住の小・中学生
調査期間	令和6年5月18日～5月31日
調査方法	こどもまつり、各スポーツセンターにて配布
回収数	851票
調査項目	スポーツに関する自由意見

【スポーツに関する自由意見(抜粋)】

■スポーツをする場所について

- ・遊具を増やしてほしい
- ・ドッジボールの出来る児童館とかが近くに出来れば良いと思う
- ・ボールを使える公園が増えてほしい
- ・色々なスポーツができる場所ができてほしい
- ・キックボード・ブレイブボードができる場所を作してほしい

■スポーツに触れる機会について

- ・学校でもっとスポーツ・運動をする時間が増えてほしい
- ・こどもが無料で野球などを見られる機会を作してほしい
- ・トップスポーツ選手を呼んでなにかしてほしい
- ・小学生・こども向け講座を増やしてほしい

■その他

- ・皆が仲良くルールを守れば、もっとスポーツが楽しくなると思う
- ・ドッジボールを「やりたい」と言ったら、男子に「女子にボールが投げられるかな」と笑われて悲しかった。そういったことを無くしたい
- ・何かとコラボすれば、みんながもっとスポーツを好きになると思う



▲こどもまつりでの様子▲

(3) 区内のスポーツ関係団体等の活動について

■ヒアリング実施概要

調査対象	スポーツ推進に関連する活動・事業を行っている組織 12 団体
調査期間	令和6年10月16日～10月29日
調査方法	対面、オンラインまたは電話でのヒアリング
調査項目	・団体、組織について ・他の団体等との連携・取り組み状況について ・団体におけるスポーツ振興に関する課題について ・区のスポーツ振興にとって重要なこと（要望や施策に対する意見）

■調査結果(概要)

団体におけるスポーツ振興に関する課題について	
人材確保・育成	・職員・スタッフ等の確保 ・指導員やボランティアの確保・育成・技術力向上
団体の運営	・活動資金、運営資金、スポンサー等の安定的確保 ・活動回数・内容の充実、新規事業の企画
活動場所	・活動場所の確保、予約が取りづらい、急に使えなくなる ・障害者スポーツの団体に対する施設使用料の減免
トップスポーツチーム	・集客の安定化 ・チームの認知度向上
その他	・障害者の施設利用時に、地域に迷惑がかからないよう悩む

区のスポーツ振興にとって重要なこと（要望や施策に対する意見）	
団体の運営	・委員の高齢化による活動縮小を防ぐため、若い世代の参加を促す対策を支援してほしい ・地域スポーツクラブは会費で運営しているため、区からの補助があると良い
活動場所	・活動場所の確保が難しいため、地域スポーツ団体は施設を優先利用できるとよい ・障害者スポーツ団体は優先的に施設を使えるようにしてほしい
施設の整備および維持管理	・区立スポーツ施設の改修を計画的にしてほしい ・オリパラレガシー施設を、気軽に活用できるようにしてほしい
パラスポーツ・障害者のスポーツ	・施設のバリアフリー化に取り組んでほしい ・パラスポーツに対して、積極的な取組を進めてほしい
情報発信	・区のスポーツ情報を、区民にわかりやすく、広範囲に伝えてほしい ・各スポーツ施設への交通アクセスを区民にわかりやすく伝えてほしい
区・地域団体等との連携	・地域や企業など、いろいろな主体を巻き込んで地域が盛り上がる事業を実施してほしい ・区としてスポーツをもっと盛り上げてほしい
その他	・「部活動の地域移行」への対応

5 | 区のスポーツをとりまく課題と対応

区民アンケート等の基礎調査結果をもとに、今後のスポーツ施策の課題および対応について、以下のとおりまとめました。

スポーツの実施状況

- 成人の週1日以上スポーツ実施率は全体で52.0%となっており、国と同水準で東京都よりも低い傾向となっています。また、今後もスポーツ・運動を継続したい、またはきっかけがあれば始めたいと考えている人は約9割となっていることから、ライフスタイルや年齢等に関わらず、すべての区民がスポーツに親しむ環境の構築が必要です。
- この1年間にスポーツ・運動を全くしなかったと回答した人は全体の3割程度となっています。仕事が忙しくて時間がないといった回答が多かったことから、仕事や家事・育児で忙しい中でも、気軽に安心してスポーツに取り組める場や機会の提供が重要です。
- 70歳以上の週1日以上スポーツ実施率は6割台と高く、また、運動不足を感じる割合も若年層に比べて低くなっています。健康や生きがいづくりなどの観点からも、高齢者向け事業の継続が必要です。
- スポーツ庁が実施した「令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、全国的に運動やスポーツをすることが好きなこどもは総運動時間が長く、体力合計点が高い傾向にあります。スポーツが好きだということの意識を育むことで、体力の向上を目指すことが重要です。

パラスポーツ・障害者のスポーツ

- 障害者の週1日以上スポーツ実施率は48.8%となっています。障害者がスポーツに親しみ、楽しむことができる環境が必要です。
- 障害者がスポーツをしない理由として「自分に合ったスポーツや運動の情報がない」という回答が多いことから、スポーツや運動に関する情報発信の充実が必要です。
- パラスポーツに関心がない人が半数以上であることから、区民のパラスポーツに対する興味・関心を向上させるための取組みが必要です。
- 障害者のスポーツ団体が優先的に施設利用できる運用方法について、検討が必要です。
- 施設のバリアフリー化など、障害の有無に関わらず、誰もが気軽にスポーツに親しむことのできる環境の整備が必要です。

スポーツ実施環境

- スポーツ・運動の実施場所は道路・共用スペースが多く挙げられており、またスポーツ・運動を始めるためのきっかけとして「気軽にスポーツ・運動ができる施設や環境」、今後推進すべき施策として「公共スポーツ施設の整備・充実」、「公園等の生活に身近な場のスポーツ・運動の環境整備」が挙げられています。公共の場で安全にスポーツをすることができる環境の充実が必要です。

スポーツ観戦

- スポーツを何かしらの形で観戦した割合は8割台となっています。引き続き、スポーツ観戦に対する区民の関心喚起を図る取り組みが必要です。

トップスポーツチーム

- 区内を拠点とするトップスポーツチームをいずれも「知らない」と回答する区民が7割以上と、認知度がやや低い状況となっています。ホームゲームへの区民招待や、区内小・中学校への出前講座など、区民がトップスポーツチームをより身近に感じることができるような取り組みが必要です。

情報発信

- 「こうとう区報」やインターネットを用いてスポーツ・運動に関する情報を入手する人が多いことから、紙面、WEB等を活用してより多くの区民に効果的に情報を提供していくことが重要です。

ボランティア

- 全体のうち3割の区民が、スポーツ・運動に関するボランティアに興味があると回答していますが、男女とも年齢が若いほどボランティアに興味がないと回答しています。気軽にボランティアに参加できるような仕組みづくりや、情報提供の充実、また興味・関心を向上させるための取り組みが必要です。

スポーツ・運動の指導者

- スポーツ・運動の楽しみ方を指導し、興味・関心を向上させるような指導者、健康・体力づくりの指導ができる指導者の育成が必要です。

第 3 章 具体的な施策展開

1 | 基本理念

「スポーツが熱いまち 江東区」

～だれもがスポーツを楽しみ、スポーツの力でみんなの元気があふれるまち～

本区ではこれまで「スポーツが熱いまち 江東区」を基本理念に掲げ、区民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも気軽に「する」、「みる」、「ささえる」スポーツに親しむことのできる環境整備に取り組んできました。

本計画においても、前計画の理念を継承しつつ、多様化するスポーツとの関わり方や、スポーツを通じた地域の活性化などの視点を盛り込んだ、「だれもがスポーツを楽しみ、スポーツの力でみんなの元気があふれるまち」を新たなキャッチフレーズとして決めました。

区民がそれぞれのライフスタイルに応じたスポーツ活動を楽しむことで、誰もが心身ともに豊かになれる、ウェルビーイング※な地域社会の実現を目指します。



※ ウェルビーイング：心身ともに健康で、社会的にも満たされた状態にあること

2 | 基本目標

区をとりまく課題を解決するとともに、基本理念の実現に向け、4つの基本目標を掲げ、本区のスポーツ推進を図ります。

基本目標

1

スポーツをする機会の創出

こどもから高齢者まで、多様なライフステージ・ライフスタイルに応じ、気軽にスポーツを楽しむことのできる機会を充実していきます。

また、障害のある方が気軽にスポーツに取り組める機会や、障害のある方とない方がスポーツを通じて交流できる機会を提供するとともに、地域社会全体におけるパラスポーツへの理解を促進していきます。

基本目標

2

スポーツをする環境の充実

区民が気軽にスポーツに親しむことができるよう、スポーツ施設の安定的な運営に取り組むとともに、生活に身近な場所でスポーツができる環境を充実していきます。

また、本区の特色である、水辺環境を生かしたスポーツを推進するとともに、東京2020大会のレガシー施設等との連携に取り組んでいきます。

基本目標

3

スポーツをみる楽しさの発信

オリンピック・パラリンピックなどの国際大会等の機会をとらえて、スポーツに対する関心を喚起するとともに、スポーツをみる楽しさを広めていきます。

また、トップスポーツチーム連携団体との協働・連携を強化し、魅力的なスポーツ観戦の機会を提供していきます。

基本目標

4

スポーツをささえる人材・団体の活躍促進

スポーツ推進委員やスポーツボランティア、スポーツ協会、地域スポーツクラブなど、地域でスポーツを「ささえる」人材・団体の活躍を推進していきます。

3 | 数値目標

本計画では、今後展開するスポーツ施策の成果や進捗状況を客観的に評価するため、基本目標ごとに数値目標を以下のとおり設定します。

数値目標	現状値	目標値 (令和11年度)
 基本目標1. スポーツをする機会の創出		
週1回以上スポーツ・運動を行う区民の割合※1	52%	70%
週1回以上スポーツ・運動を行う障害者の割合※2	48.8%	50%
 基本目標2. スポーツをする環境の充実		
区立スポーツ施設の利用者数※3	1,767,000人	2,550,000人
区立スポーツ施設の利用者満足度※4	90.9%	95%
 基本目標3. スポーツをみる楽しさの発信		
トップスポーツチーム区民招待観戦者数※3	14,026人	15,000人
 基本目標4. スポーツをささえる人材・団体の活躍促進		
スポーツボランティア登録者数※5	115人	260人
初級パラスポーツ指導員養成講習会 年間受講者数※3	14人	30人

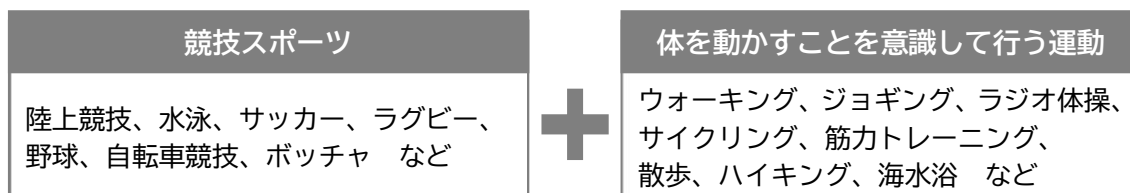
- ※1 出典：区民アンケート（令和6年度） 住民基本台帳より無作為抽出した区民を対象に調査を実施
 ※2 出典：障害のある方のアンケート（令和6年度） 拳手制により調査を実施。区内障害者通所施設等で周知
 ※3 出典：業務取得（令和5年度実績）
 ※4 出典：利用者アンケート（令和5年度）
 ※5 出典：業務取得（令和6年度実績）

4 | 本計画におけるスポーツの定義

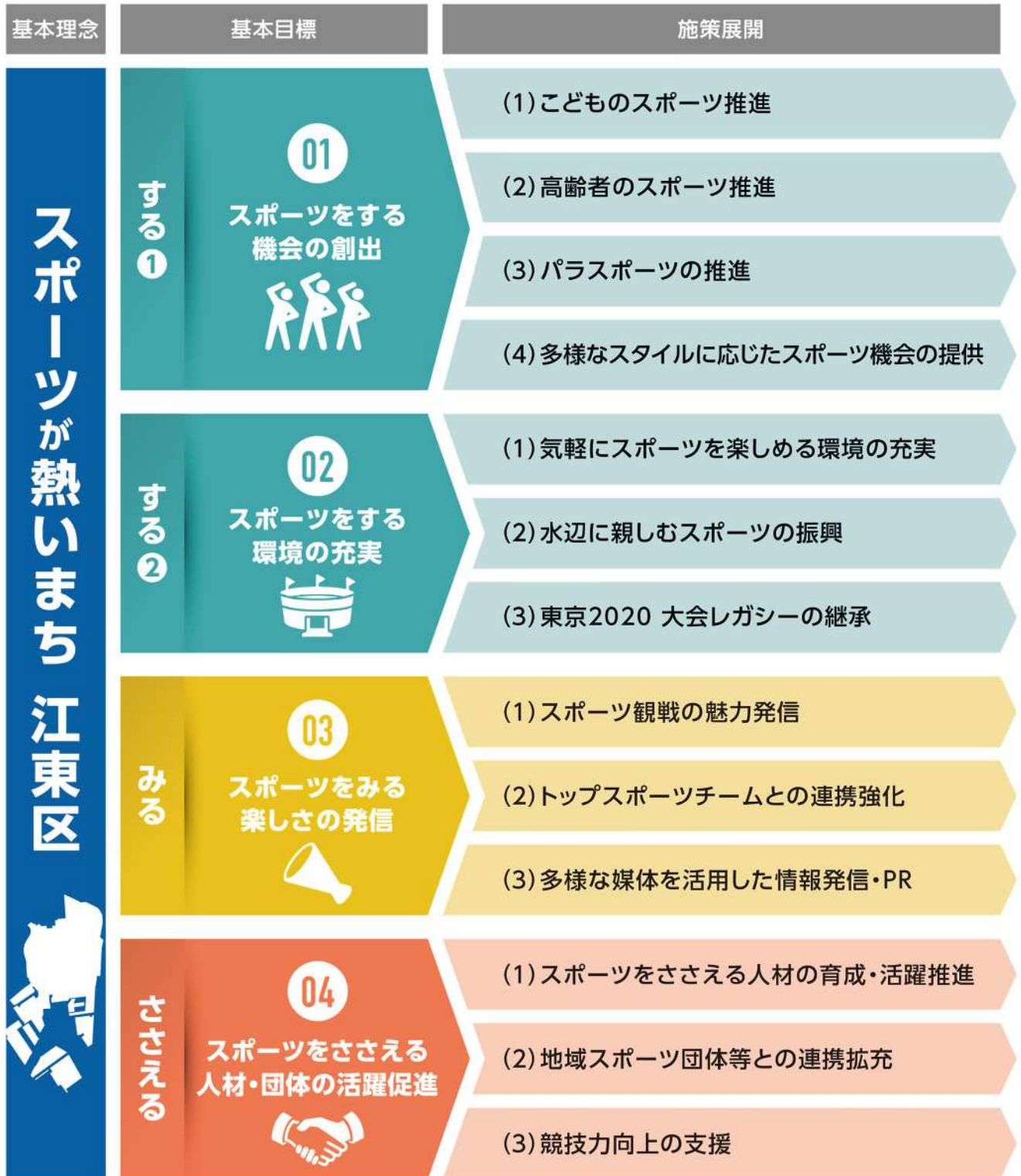
スポーツ（sport）はラテン語の「deportare（気晴らしをする、楽しむ、遊ぶ）」が語源と言われています。我が国では、戦後、こどもの体力・運動能力向上という観点からスポーツが活用されるようになり、近年はスポーツの楽しさや喜びを味わってもらうことの重要性も認識されてきたところです。

本計画では、前計画と同様に、「スポーツ」とは、野球やサッカーなど一定のルールに基づいて勝敗や記録を競うスポーツや運動だけでなく、散歩や体操などの体を動かすことを意識して行う運動も「スポーツ」として広く捉えることとします。

■本計画で取り扱う「スポーツ」の範囲



5 | 施策の体系



主な取組

- ファミリースポーツチャレンジ
- ジュニアスケートボード大会
- こどもスポーツデー
- 小学生スーパードッジボール大会
- 少年運動広場の提供
- 児童館・こどもプラザの運営
- 福祉会館・ふれあいセンター・グランチャ東雲の運営
- KOTO 生き粋体操
- シニア体操教室
- 転ばぬ先のトレーニング
- 全国健康福祉祭(ねんりんピック)
- ボッチャ交流大会
- パラスポーツ体験会
- 障害者に配慮した施設運営
- みんなでスポーツフェスタこうとう
- ユニバーサルカヌー体験会
- 知的障害者のスポーツ活動の支援
- 江東シーサイドマラソン大会
- スポーツ教室
- 江東スポーツデー
- 親子で楽しめるスポーツ教室
- こうとう健康チャレンジ
- 区立スポーツ施設の管理・運営
- 区立スポーツ施設の改修
- 学校施設の開放
- 区立中学校体育館の夜間開放
- 区立公園におけるスポーツ広場の提供
- こどもカヌー大会
- インクルーシブ・セーリング体験会 若洲
- 区立中学校カヌー部
- 区立小中学校セーリング部
- 豎川河川敷公園カヌー・カヤック場の運営
- 大学と連携したカヌー教室の実施
- こどもカヌー大会【再掲】
- 区民スポーツ大会(水泳)
- KOTO☆ボッチャフレンドリーマッチ
- 夢の島スケートボードパークの運営
- パラリンピック競技体験会
- 東京2025 デフリンピックの周知・啓発、障害理解の促進
- 国際大会等の周知・啓発
- 区内スポーツ施設を使用したスポーツイベントの周知
- トップスポーツチームの試合観戦招待
- トップスポーツチームによる地域貢献
- トップスポーツチームとの多分野での連携
- こうとう区報・区HP・区公式SNSによる情報発信
- フィットこうとうによる情報発信
- 各スポーツ施設の公式SNSを活用した情報提供の充実
- デジタルサイネージによる情報発信
- シティプロモーションの推進
- パラスポーツ指導員養成講習会
- スポーツボランティア制度の充実
- 指導者養成講習会
- 部活動指導員の活用
- スポーツ推進委員会との連携
- スポーツ協会との連携
- 地域スポーツクラブとの連携
- KOTO スポーツフィールド
- 区立中学校部活動の地域移行
- 区民スポーツ大会の開催
- 東京都スポーツ大会への選手派遣
- ジュニアカヌー選手の育成
- パラリンピックカヌー選手の輩出
- 功労者の表彰
- トップアスリートによる指導

基本目標 1 スポーツをする機会の創出

新規：新たに取り組むもの

拡充：内容の充実を図る取組

重点：特に重点的に取り組むもの

施策展開（1）こどものスポーツ推進

こどもがスポーツを経験することは、こども自身の健康な身体と豊かな心を育むことにつながります。

こどもを対象とした様々なスポーツイベントを開催するとともに、こどもたちが安心して楽しく運動できる機会を提供し、体力・運動能力の向上に取り組んでいきます。

主な取組	内 容	担 当
ファミリースポーツ チャレンジ	幼児～小・中学生とその保護者を対象に、競技体験やプロアスリートとの交流など、家族で楽しめる体験イベントを開催します。	スポーツ振興課
新規 ジュニアスケート ボード大会	神奈川県相模原市と連携し、ジュニアスケートボード大会を開催します。	スポーツ振興課
こどもスポーツ デー	区内在住の高校生以下を対象に、毎月第2・第4土曜日の午前中、各スポーツセンターの大・小体育室、プールを無料開放します。	スポーツ振興課 指定管理者
小学生スーパ ードッジボール大会	区立小学校の3～6年生を対象とした、スーパードッジボール大会を開催します。	指定管理者 スポーツ推進委員会
少年運動広場の 提供	区内4か所にある少年運動広場（辰巳少年野球場、南砂少年野球場、亀戸運動場、千石運動場）を提供します。	スポーツ振興課
児童館・こども プラザの運営	各児童館およびこどもプラザにおいて、スポーツ（体力増進）やレクリエーション活動等のプログラムを実施します。	こども家庭支援課 養育支援課

CLOSE UP



【ジュニアスケートボード大会の開催】

パリ2024オリンピック競技大会、スケートボードストリートの金メダリストである、堀米雄斗選手の出身地の江東区と、吉沢恋（よしざわここ）選手の出身地の神奈川県相模原市が連携し、ジュニアスケートボード大会を開催します。

第二の堀米選手、吉沢選手の誕生を期待し、スケートボードのさらなる普及につなげていきます。



▲スケートボードイベントの様子

施策展開（２）高齢者のスポーツ推進

高齢者におけるスポーツは、健康増進や生きがい・仲間づくりにつながるなど、重要な役割を果たします。

高齢者向けの各種スポーツ教室やイベントの実施等を通じて、気軽にスポーツに親しむことのできる機会の充実を図っていきます。

主な取組	内 容	担 当
福祉会館・ふれあいセンター・グランチャ東雲の運営	各福祉会館やふれあいセンター、グランチャ東雲において、健康体操等を実施することで、高齢者の健康増進を図ります。	長寿応援課
KOTO 活き粋体操	高齢者のストレッチ、筋力及びバランス機能の維持・向上ができる、江東区独自の介護予防体操を実施します。	地域ケア推進課
シニア体操教室	各スポーツセンターにおいて、ストレッチや全身を使ったリズム体操で体力維持や体の調整を行う体操教室を実施します。	スポーツ振興課 指定管理者
転ばぬ先のトレーニング	各スポーツセンターにおいて、転倒防止や寝たきり予防を目的としたエクササイズ教室を実施します。	スポーツ振興課 指定管理者
新 規 全国健康福祉祭（ねんりんピック）	令和 10 年度に東京都で開催予定の「全国健康福祉祭（ねんりんピック）」について、都と連携し、大会に積極的に協力します。	スポーツ振興課

CLOSE UP



【高齢者向けeスポーツ教室の実施】

eスポーツは性別・世代を超えて楽しめるコンテンツで、福祉会館やふれあいセンターなどの身近な場所で気軽に体験できるよう、eスポーツ教室を実施しています。

eスポーツを通して、社会参加の促進を図るとともに、高齢者の健康増進や生きがいにつなげていきます。



▲福祉会館でのeスポーツ教室の様子

【全国健康福祉祭(ねんりんピック)】

全国健康福祉祭(ねんりんピック)とは、スポーツ交流大会をはじめ、文化交流大会、美術展など、多岐にわたる種目で構成された、高齢者の社会参加推進を目的とした健康と福祉の総合的な祭典です。

令和 10 年度には東京都での初開催が決定しました。

大会の成功に向け東京都と連携し、積極的に協力していきます。



▲シンボルマーク

施策展開（3）パラスポーツの推進

ボッチャをはじめとした各種パラスポーツ競技の体験などを通じて、パラスポーツに親しむ機会を拡充しながら障害に対する理解の醸成を図ります。

また、障害者に配慮した施設運営やスポーツ活動の支援に取り組むことで、障害者の運動機会の創出を図っていきます。

主な取組	内 容	担 当
ボッチャ交流大会	多様な区民の交流促進を目的とした、年齢や性別、障害の有無に関わらず参加できる、ボッチャ交流大会を開催します。	スポーツ振興課 指定管理者
新規 パラスポーツ 体験会	パラスポーツをより身近に感じてもらえるよう、地域のスポーツ団体と連携し、パラスポーツ体験会を年2回開催します。	スポーツ振興課
重点 障害者に配慮した 施設運営	障害者が気軽にスポーツを楽しめる環境を提供するため、障害者専用の練習時間や車いす対応のマシン等を設置します。	スポーツ振興課 指定管理者
みんなでスポーツ フェスタこうとう	パラ・デフスポーツ競技体験ブースおよびパラ・デフアスリートとの交流など、誰もが楽しめるスポーツイベントを開催します。	スポーツ振興課 指定管理者
ユニバーサル カヌー体験会	障害の有無に関わらず、気軽にカヌーに親しむことのできる機会を提供するため、越中島プールにてカヌー体験会を開催します。	スポーツ振興課 指定管理者
知的障害者の スポーツ活動の 支援	軽度知的障害者を対象としたエンジョイ・クラブの余暇活動の1つとして、バスケットボール等のスポーツ活動を支援します。	障害者施策課

CLOSE UP



【障害のある方も気軽にスポーツに取り組める環境づくり】

障害者が気軽にスポーツを楽しめる環境を提供するため、スポーツセンターでは車いす対応のトレーニングマシンの設置や、プールにおいて、特定の日に「障害者専用レーン」を設置しています。

また、夢の島競技場においても、障害者専用の練習日「パラスポーツ HOUR」を設定しています。

利用者のニーズ等を踏まえ、引き続き障害者が安心・安全に自分のペースでスポーツに取り組むことのできる環境づくりを進めていきます。



▲障害者専用レーン（東砂スポーツセンター）



▲パラスポーツ HOUR の様子

施策展開（４）多様なスタイルに応じたスポーツ機会の提供

競技志向の方からライト層までの幅広いニーズや、多様なライフスタイルに応じ、世代を問わず、区民の誰もが気軽にスポーツを楽しむことができる機会を創出していきます。

主な取組	内 容	担 当
重 点 江東シーサイド マラソン大会	夢の島競技場をスタート・フィニッシュとした、日本陸連公認の江東シーサイドマラソン大会を開催します。	スポーツ振興課
重 点 スポーツ教室	各スポーツセンターおよび屋外スポーツ施設において、多様なレベルに応じたスポーツ教室を実施します。	スポーツ振興課 指定管理者
江東スポーツデー	区内在住・在勤・在学者を対象に、毎月第２土曜日に各スポーツセンター（プールを除く）を無料開放します。	スポーツ振興課 指定管理者
親子で楽しめる スポーツ教室	各スポーツセンターおよび屋外スポーツ施設において、親子向けのプログラムや保護者向けのセミナー等を開催します。	スポーツ振興課 指定管理者
こうとう健康 チャレンジ	日々のウォーキングや健診受診、スポーツセンターの利用等をポイント化し、抽選で景品を付与するイベントを実施します。	健康推進課 指定管理者

CLOSE UP



【多様なスタイルに応じたスポーツ教室の実施】

各スポーツセンターおよび屋外スポーツ施設では、多様なライフスタイル・ライフステージに応じたスポーツ教室を展開しています。

例えば、仕事や子育てにより、スポーツに取り組むことのできる時間が限られている働き世代等のスポーツ活動への参加を促すため、土日や早朝の時間帯における「朝活スポーツ教室」や、自宅からでも気軽に参加できる「オンラインヨガ講座」など、様々な形でスポーツ教室を実施しています。

誰もが自分に合ったスタイルでスポーツに取り組める環境づくりを進めていきます。



▲スポーツ教室（朝活水泳）の様子



▲オンラインヨガ講座の様子

基本目標 2 スポーツをする環境の充実

施策展開（1）気軽にスポーツを楽しめる環境の充実

誰もがいつでも気軽にスポーツに取り組むことができるよう、スポーツ施設の安定的な運営を行うとともに、公園や学校施設など、より身近な場所でスポーツに親しむことのできる機会の充実を図っていきます。

主な取組	内 容	担 当
拡 充 区立スポーツ施設の管理・運営	区立スポーツ施設の運営を通じて、区民が気軽にスポーツを楽しめる環境の充実を図ります。	スポーツ振興課 指定管理者
区立スポーツ施設の改修	安全・安心に施設を利用できるよう、江東区長期計画に基づき、施設のバリアフリー化や老朽化改善のための改修を実施します。	スポーツ振興課
学校施設の開放	区民に身近なスポーツの場として、区立小・中学校の校庭・体育館、豊洲西小学校のプール・トレーニング室を地域へ開放します。	学務課
区立中学校体育館の夜間開放	個人でも身近に利用できる場として、毎週金曜日の夜間に区立中学校6校の体育館を開放します。	スポーツ振興課
拡 充 区立公園におけるスポーツ広場の提供	横十間川親水公園の水上アスレチック場や、豎川河川敷公園にあるカヌー・カヤック場など、スポーツに親しめる場を提供します。	施設保全課

CLOSE UP



【荒川・砂町庭球場のテニスコートを拡張！】

テニスコートはスポーツ施設の中でも特に利用率が高いことから、令和7年度には荒川・砂町庭球場のテニスコート2面の拡張を予定しています。

利用者ニーズを踏まえ、誰もが気軽にスポーツに取り組める環境の整備に努めます。



▲荒川・砂町庭球場

【若洲公園がリニューアル！】

若洲公園は、公園全体を改修するとともに、多目的広場に都内最大の大型遊具を新設するなど、令和9年度のリニューアルを予定しています。

リニューアル後も引き続き、誰もが気軽にスポーツに親しめる場とします。



▲若洲公園(リニューアル後パース図)

施策展開（２）水辺に親しむスポーツの振興

河川や運河など、“水彩都市・江東”として豊かな水辺環境を生かし、カヌー・カヤックをはじめとした、様々な水辺に親しむスポーツを推進していきます。

また、東京 2020 大会の競技施設をレガシーとして活用し、水辺スポーツの普及振興に取り組んでいきます。

主な取組	内 容	担 当
重 点 こどもカヌー大会	東京 2020 大会の競技会場となった海の森水上競技場にて、小学４～６年生を対象としたカヌー大会を開催します。	スポーツ振興課
重 点 インクルーシブ・セーリング体験会 若洲	若洲ヨット訓練所で障害の有無に関わらずセーリングに挑戦できる、インクルーシブ・セーリング体験会を実施します。	スポーツ振興課
区立中学校 カヌー部	内部河川が多い区の地域特性を生かし、区立中学校カヌー部を拠点校方式により実施します。	教育支援課
区立小中学校 セーリング部	水辺に面した区の地域特性を生かし、区立小中学校セーリング部を拠点校方式により実施します。	教育支援課
豎川河川敷公園 カヌー・カヤック場の運営	気軽に水辺スポーツに親しめる場として、豎川河川敷公園のカヌー・カヤック場を運営します。	施設保全課
大学と連携した カヌー教室の実施	東京海洋大学と連携し、内部河川のカヌーツーリングや区の文化・歴史などを学ぶカヌー教室を開催します。	スポーツ振興課 指定管理者

CLOSE UP



【インクルーシブ・セーリング体験会 若洲】

本区では「一般社団法人パラセーリング東京」・「NPO 法人マリンプレイス東京」と共催で、インクルーシブ・セーリング体験会を、若洲ヨット訓練所にて実施しています。

障害のある方もない方も一緒に、同じスポーツを楽しむことで、互いを理解し尊重しあう、共生社会の実現につなげていきます。



▲インクルーシブ・セーリング体験会の様子

施策展開（3）東京 2020 大会レガシーの継承

東京 2020 大会後のレガシー継承の取組として、スポーツに対する関心や気運の高まりを一過性で終わらせないため、競技会場となった施設でのイベント実施や競技体験の機会を提供していきます。

主な取組	内 容	担 当
重 点 こどもカヌー大会 【再掲】	東京 2020 大会の競技会場となった海の森水上競技場にて、小学4～6年生を対象としたカヌー大会を開催します。	スポーツ振興課
区民スポーツ大会 （水泳）	東京 2020 大会の競技会場となった東京アクアティクスセンターにて、区民スポーツ大会（水泳）を開催します。	スポーツ振興課 指定管理者
KOTO☆ボッチャ フレンドリーマッチ	東京 2020 大会の競技会場となった有明アリーナにて、希望する区立小学校を対象としたボッチャ大会を開催します。	指導室
拡 充 夢の島スケートボード パークの運営	東京 2020 大会での堀米雄斗選手の活躍を受け整備した夢の島スケートボードパークにて、体験会やイベントを実施します。	スポーツ振興課 指定管理者
パラリンピック 競技体験会	東京 2020 大会を契機に高まったパラスポーツへの興味・関心を継続させるため、各スポーツセンターで競技体験会を実施します。	スポーツ振興課 指定管理者

CLOSE UP



【こどもカヌー大会】

区内の小学4～6年生の対象に、水辺スポーツに取り組むきっかけづくりとして、毎年9月に「こどもカヌー大会」を開催しています。

令和4年度からは、東京 2020 大会でカヌーの競技会場となった海の森水上競技場にて開催しています。

本大会を通じて、普段触れる機会の少ないスポーツを体験する貴重な場を提供するとともに、オリパラレガシーの継承を図ります。



▲こどもカヌー大会の様子

【夢の島スケートボードパークがリニューアル！】

東京 2020 大会より正式種目となったことや、堀米雄斗選手の金メダル獲得などによる競技人気の高まりを受け、令和4年 11 月にオープンしました。

令和7年度には、初級者エリアの拡張や、セクションの一部リニューアルを予定しています。



▲夢の島スケートボードパーク(中級エリア)

基本目標 3 スポーツをみる楽しさの発信

施策展開 (1) スポーツ観戦の魅力発信

スポーツをみることは、極限を追求するアスリートの姿に感動し、スポーツへの関心度を向上させるだけでなく、ストレス発散や、観戦者同士の一体感・連帯感の醸成にもつながります。

大規模な国際大会の周知・啓発や区内施設を使用したスポーツイベントへの観戦招待を行うことで、スポーツ観戦の機会を提供していきます。

主な取組	内 容	担 当
新 規 東京 2025 デフリンピック の周知・啓発、 障害理解の促進	初めて日本で開催される「東京 2025 デフリンピック大会」を契機に、デフリンピックの周知啓発及び障害への理解促進を図ります。	スポーツ振興課 障害者施策課
国際大会等の 周知・啓発	国際大会（オリパラ/世界陸上/アジア大会）等の情報を積極的に周知・啓発し、スポーツ観戦への区民の関心喚起を図ります。	スポーツ振興課
区内スポーツ施設 を使用した スポーツイベントの周知	区内スポーツ施設を使用したスポーツイベントへ区民観戦招待を行うなど、スポーツ観戦の魅力発信に取り組みます。	スポーツ振興課

CLOSE UP



【2025 年、東京にデフリンピックがやってくる！】

令和7年 11 月、日本で初めてデフリンピックが開催されます。

また、今回大会は第1回大会よりちょうど 100 周年となる、記念すべき大会となっています。

江東区においては、3つの競技(ゴルフ・水泳・テニス)が開催される予定であり、本大会を契機として、区民のデフスポーツの認知度および興味関心の向上を図るとともに、障害への理解促進を図ります。



▲東京2025デフリンピック
エンブレム

■デフリンピック観戦ツアーを実施

区内の会場で競技が開催されることは、スポーツの素晴らしさを直接肌で感じてもらえる絶好の機会になります。この機会を逃さず、アスリートの活躍を間近で観戦し、感動を体験できる、「デフリンピック観戦ツアー」を実施します。

また、観戦ツアー参加者に対し、事前にデフリンピックに関する講習会を実施することで、デフスポーツの魅力や価値を伝えるとともに、聴覚障害をはじめとした、障害への理解・認識を深めます。

施策展開（２）トップスポーツチームとの連携強化

スポーツの裾野を広げ、スポーツ人口の拡大や観戦文化の定着を図るために、区民がトップスポーツを見ることを積極的に推進するとともに、まちの魅力向上や活性化といった地域づくりにつなげていきます。

主な取組	内 容	担 当
拡 充 トップスポーツチーム の試合観戦招待	トップスポーツチームの公式試合への区民招待を実施することで、区民がトップレベルのスポーツに触れる機会を提供します。	スポーツ振興課
拡 充 トップスポーツチーム による地域貢献	区イベントへの協力や区立小・中学校への出前講座等を通じ、区民との交流を図ることで、スポーツの魅力を実感する機会を提供します。	スポーツ振興課 ほか
拡 充 トップスポーツチーム との多分野での連携	トップスポーツチームの持つ PR 力や資源を活かし、スポーツ振興だけでなく、各種施策の推進につなげます。	スポーツ振興課 ほか

CLOSE UP



【トップスポーツチームとの連携協定】

区内に本拠地を持つトップスポーツチームと、地域社会の発展を目的とした相互連携・支援協力に関する協定を締結しています。現在は以下の4つのチームと協定を締結しており、各チームでは江東区が実施する各種イベントや事業への協力、ホームゲームへの区民招待などを実施しています。

トップスポーツチームとの連携を通じて、区民スポーツの普及振興と地域の活性化につなげていきます。

■トップスポーツチーム



▲清水建設江東ブルーシャークス
(ラグビー)



▲東京ユナイテッド
バスケットボールクラブ
(バスケットボール)



▲アルバルク東京
(バスケットボール)



▲江東フェニックス
(3×3)

■多分野での連携の取り組み(一例)

- ・環境啓発(環境問題への理解促進、ごみ減量など)
- ・健康増進啓発(乳がん啓発活動)
- ・児童虐待防止啓発
- ・防災出前講座
- ・シティプロモーション
- ・ホームゲーム等での募金活動



▲乳がん啓発活動(ピンクリボン運動)

施策展開（３）多様な媒体を活用した情報発信・PR

多くの区民がスポーツに関心を持ち、「する」「みる」「ささえる」活動に主体的に参加できるよう、区報や区公式 SNS などの多様な媒体・手段を用いてスポーツに関する情報を提供していきます。

主な取組	内 容	担 当
こうとう区報・ 区 HP・区公式 SNS による情報発信	「こうとう区報」や区公式 HP・SNS を活用し、各種スポーツイベント等のスポーツ・運動に関する情報発信を積極的に実施します。	スポーツ振興課 広報広聴課
フィットこうとう による情報発信	「フィットこうとう」を活用し、スポーツや健康づくりに関する情報発信を積極的に実施します。	スポーツ振興課 指定管理者
重点 各スポーツ施設の 公式 SNS を活用した 情報提供の充実	公式ホームページのほか、X（旧 Twitter）、Instagram 等の各施設公式 SNS を活用し、スポーツに関する情報提供の充実を図ります。	スポーツ振興課 指定管理者
デジタルサイネージ による情報発信	各スポーツ施設に設置しているデジタルサイネージにおいて、各種スポーツイベントの情報発信を積極的に実施します。	スポーツ振興課 指定管理者
シティプロモーション の推進	区のスポーツの特色や魅力をふるさと納税の返礼品等に活用することで、シティプロモーションを推進します。	広報広聴課

CLOSE UP



【各スポーツ施設の公式 SNS を活用した情報提供の充実】

現在、区では、各スポーツ施設の公式 SNS を活用し、スポーツに関する様々な情報発信を行っています。

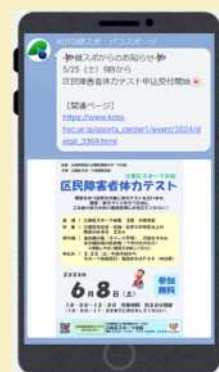
区民に届く効果的な情報発信に引き続き取り組みます。

■障害者向け LINE アカウント(「KOTO 健スポ パラスポーツ」)

必要な情報を得にくい障害者に向けて、年代を問わず利用率の高い LINE アカウントを活用し、スポーツセンターで実施している様々なイベント情報を配信しています。

■夢の島スケートボードパーク公式 Instagram

スケートボードパークの利用者の多くは若い世代であることから、若い世代の利用率が高い Instagram を使って、利用者へ情報発信を行うだけでなく、スケートボードの魅力を広範囲に発信するなど、積極的に活用しています。



▲LINE での配信画面
(KOTO 健スポ パラスポーツ)

基本目標4 スポーツをささえる人材・団体の活躍促進

施策展開（1）スポーツをささえる人材の育成・活躍推進

誰もが、身近な地域でいつでもスポーツができる環境をつくるためには、スポーツ施策を地域で展開していく人や指導者など、スポーツを支える人材が重要な役割を担っています。

スポーツの様々な場面を支える人材を育成し、受け皿となる組織の体制強化に取り組んでいきます。

主な取組	内 容	担 当
パラスポーツ指導員養成講習会	パラスポーツ指導員資格取得を計画的に進めるため、各スポーツセンターにて講習会を実施します。	スポーツ振興課 指定管理者
重点 スポーツボランティア制度の充実	区独自のボランティアの研修・登録を行うとともに、各種スポーツイベントにおいて、ボランティアの活躍機会を提供します。	スポーツ振興課 指定管理者
指導者養成講習会	各スポーツセンターで、ボッチャ指導員や水上安全法救助員の講習会を行う等、指導者に必要な知識・技術の習得を図ります。	スポーツ振興課 指定管理者
部活動指導員の活用	生徒が専門的な指導を受けられるよう、区立中学校に部活動指導員を配置します。	教育支援課



【スポーツボランティア制度】

区では、各スポーツセンターにおいて、スポーツボランティアを養成する、ボランティア研修会を実施しています。

修了すると、区独自のスポーツボランティアへの登録が可能となり、区や指定管理者が主催の各種スポーツイベントにおいて、ボランティアとして活動することができます。

現在は約120名の登録があり、様々なイベントで活躍しています。

今後も東京2020大会のレガシーを継承すべく、ボランティア活躍の場を提供し、スポーツを支える人材の育成及び活躍を推進していきます。

■スポーツボランティアの活動実績

- ・こどもカヌー大会 ・ファミリースポーツチャレンジ
- ・深川っ子運動会 ・小学生スーパードッジボール大会 等



▲こどもカヌー大会での活動の様子

施策展開（２）地域スポーツ団体等との連携拡充

区全体のスポーツ推進を図るためには、地域で活動する団体との連携が欠かせません。スポーツ推進委員会やスポーツ協会をはじめ、地域スポーツクラブ等との連携を強化・拡充していきます。

主な取組	内 容	担 当
重 点 スポーツ推進委員会 との連携	スポーツ推進委員会と協力してイベントを実施するとともに、地域スポーツコーディネーターとしての円滑な活動を支援します。	スポーツ振興課 スポーツ推進委員会
スポーツ協会との 連携	スポーツ協会および各競技団体と連携し、地域の主体的なスポーツ活動を促進します。	スポーツ振興課 指定管理者
重 点 地域スポーツクラブ との連携	区内で活動する地域スポーツクラブ団体と連携し、多世代が多様なスポーツに触れ、交流できる機会を提供します。	スポーツ振興課
KOTO スポーツ フィールド	江東区民まつり中央まつりにおいて、指定管理者やスポーツ推進委員会、トップスポーツチームと連携し、イベントを開催します。	スポーツ振興課 指定管理者 スポーツ推進委員会
拡 充 区立中学校部活動 の地域移行	地域のスポーツ団体や指導者等と教育委員会・学校が連携・協働し、休日の部活動を段階的に地域へ移行します。	教育支援課

CLOSE UP



【地域スポーツクラブとの連携】

地域スポーツクラブとは、学校や公共スポーツ施設などの身近な場所において、地域住民が主体となって運営するスポーツクラブのことです。江東区には現在5つのスポーツクラブがあります。現在、区と連携し「ニュースポーツ体験会」を実施しており、今後もさらなる連携強化に取り組めます。



▲東陽・木場
地域スポーツクラブ



▲NPO法人 ななすぼ



▲海の森総合型
地域スポーツクラブ



▲一般社団法人
JOTO WARRIORS



▲すばてらす豊洲

【区立中学校部活動の地域移行】

国では、こどもたちが継続的にスポーツに親しむことのできる環境の構築や教職員の負担軽減等を図るため、令和5年度～7年度を「改革推進期間」とし、部活動の地域移行を進めています。

本区においても、7年度中に8年度～10年度までの3か年を計画期間とする推進計画を策定し、区立中学校における休日部活動の地域移行に取り組めます。

施策展開（3）競技力向上の支援

競技としてのスポーツを振興するため、区民スポーツ大会を開催するとともに、選手の育成や大会への出場等を支援します。

また、スポーツ振興に貢献した区民の表彰や、トップアスリートによる指導を行い、競技力の向上を図っていきます。

主な取組	内 容	担 当
区民スポーツ大会の開催	区民スポーツの振興を目的とした、区民スポーツ大会を開催することで、競技力の向上と区民の健康な体力づくりを促進します。	スポーツ振興課 指定管理者
東京都スポーツ大会への選手派遣	東京都スポーツ大会（夏季・冬季・春季）へ江東区代表選手を派遣します。	スポーツ振興課 指定管理者
ジュニアカヌー選手の育成	区立中学校カヌー一部卒業後、国民スポーツ大会・インターハイを目指す生徒に指導委託を実施し、技術力・競技力の向上を図ります。	スポーツ振興課
重点 パラリンピックカヌー選手の輩出	江東区カヌー協会等と連携し、専門コーチによる指導を行うことで、江東区出身のパラリンピックカヌー選手の輩出を目指します。	スポーツ振興課
功労者の表彰	スポーツに関する活動を通じ、区のスポーツ振興及び発展に貢献した方を功労者として表彰します。	スポーツ振興課 指定管理者
重点 トップアスリートによる指導	スポーツクリニックやオリンピックによる競技教室等、トップアスリートから直接指導を受けることで、競技力の向上を図ります。	スポーツ振興課 指定管理者

CLOSE UP



【瀬立モニカ選手に続け！パラカヌー選手の輩出】

瀬立モニカ選手のように、パラリンピックで活躍できる江東区出身選手の輩出に向け、才能ある選手の育成に取り組んでいます。今後も選手を身近に感じ、もっと応援したくなるような、ゆかりの選手輩出に取り組めます。



▲瀬立モニカ選手

【トップアスリートによる指導】

各スポーツ施設での「スポーツクリニック」や「競技教室」では、国内外で活躍するトップアスリートより直接指導を受けることができる貴重な機会を提供することで、個人のスキルアップやモチベーションの向上につなげます。



▲競技教室の様子

第4章 計画の推進にあたって

1 | 計画の進行管理

「江東区スポーツ推進計画」を着実に推進するため、計画に掲げた施策の進捗状況、成果、課題等を検討するとともに、今後のスポーツ振興に関する意見交換を行う場として「江東区スポーツ推進連絡会」を設置しています。

2 | 計画の推進体制

本計画に定める基本理念やそれぞれの役割分担を、区やスポーツ協会、スポーツ推進委員会など、スポーツを支える主体が共有し、区民を中心としたネットワークを構築しながら、区民スポーツの普及振興に取り組んでいく必要があります。本計画の推進に向けた各主体の役割について、以下のとおり整理しています。



(1) 区民

年齢や性別、障害の有無に関わらず、健康増進や体力向上に関心を持ち、日常の健康づくりから競技スポーツとしての活動まで、様々なレベルでスポーツを「する」、楽しさを求めてスポーツを「みる」、ボランティア等の活動を通じてスポーツを「ささえる」など、多様な形でスポーツに主体的に親しむことが期待されます。また、スポーツを通して世代や地域、国籍を越えて交流していくことが期待されます。

(2) 江東区

区は本計画に掲げる実施施策の進捗管理を行い、関係団体等との連絡調整や、地域でスポーツを支える人材・団体の活躍促進を図ります。また、スポーツセンターをはじめとした、区内のスポーツ施設の整備を行います。

(3) 指定管理者（スポーツ施設）

区民の誰もが安全で快適に施設を利用できるよう、区立スポーツ施設の管理・運営を行います。また、多様なニーズに沿った事業展開や、区・関係団体と連携を図ることで、区民のスポーツへの関心喚起を図ります。

(4) 公益財団法人江東区健康スポーツ公社

江東区における生涯スポーツの中核を担う団体として、区民の健康と生きがいをつくる、地域に根ざした事業展開を図ります。また、スポーツ行政の一翼を担う団体として、区とともに区民スポーツ普及振興事業を担います。

(5) 江東区スポーツ協会

江東区におけるスポーツ並びにレクリエーション活動の振興を図り、区民の体力の向上やスポーツ人口の拡大に寄与する取組みを行います。

(6) 江東区スポーツ推進委員会

地域のスポーツコーディネーターとして、区民まつりやファミリースポーツチャレンジ等の行事や委員会独自の事業において、区や健康スポーツ公社等と連携し、区民へのスポーツの指導・普及を行います。

(7) 地域スポーツクラブ

地域に密着したスポーツクラブとして、年齢や性別、障害の有無に関わらず区民の誰もがいつでも、どこでも気軽に参加できるスポーツの機会を提供するとともに、スポーツを通じて地域の連帯感を醸成します。

(8) トップスポーツチーム、トップアスリート

「みる」スポーツ、「ささえる」スポーツ人口の拡大、まちの魅力向上や活性化とともに、地域と連携した社会貢献活動等が期待されます。また、チーム・選手が活躍することで、区民に夢や感動を与え、まち全体のスポーツ気運の醸成につなげていくことが期待されます。

第 5 章 參考資料

1 | スポーツ推進に関する各種調査結果

江東区におけるスポーツ推進の現状と課題を把握することを目的として、アンケート調査を実施しました。

(1) 区民アンケート

①スポーツの実施状況について

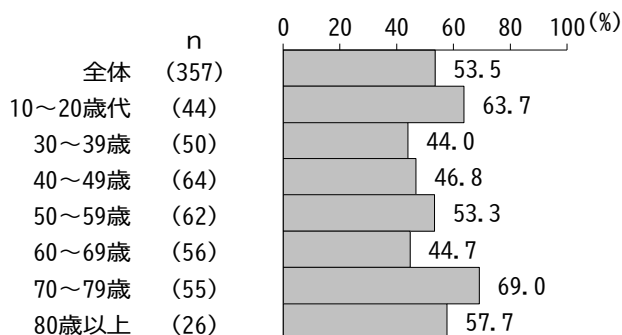
成人の週1日以上スポーツ実施率は52.0%となっています。令和元年度の調査では43.5%であり、8.5ポイント増加しました。一方で、「スポーツ・運動を全くしなかった」は全体の約3割となっています。

性・年齢別に週1日以上スポーツ実施率をみると、男女とも全体では5割を超えており、男性10～20歳代、70～79歳、女性70歳以上で6割を超えています。

一方、男女とも30～40歳代でスポーツ実施率が低く、特に女性30歳代では3割未満となっています。

<スポーツ・運動の実施頻度>

□ 週1日以上スポーツ実施率



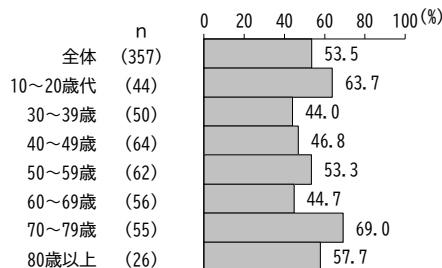
参考

国 : 52.0% ※20歳以上（スポーツ庁「令和5年度 スポーツの実施状況等に関する世論調査」）
東京都 : 66.3% ※18歳以上（東京都「令和5年度 都民のスポーツ活動に関する実態調査」）

<スポーツ・運動の実施頻度(性・年齢別)>

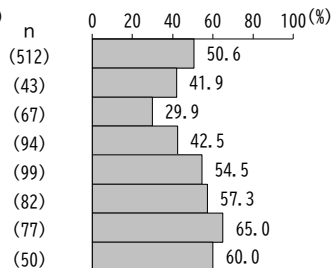
【男性】

□ 週1日以上スポーツ実施率



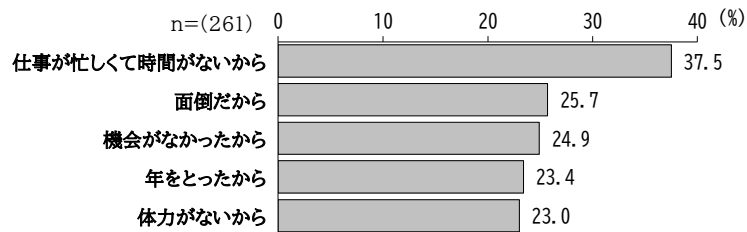
【女性】

□ 週1日以上スポーツ実施率



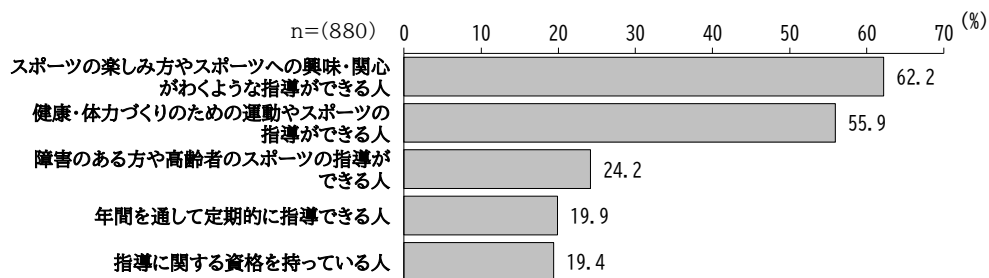
スポーツ・運動をしなかった理由は、「仕事が忙しくて時間がないから」が37.5%と最も多く、次いで「面倒だから」が25.7%、「機会がなかったから」が24.9%となっています。

<スポーツ・運動をしなかった理由(上位5項目)>



スポーツ・運動をするにあたって必要な指導者は、「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心がわくような指導ができる人」が62.2%と最も多く、次いで「健康・体力づくりのための運動やスポーツの指導ができる人」が55.9%、「障害のある方や高齢者のスポーツの指導ができる人」が24.2%となっています。

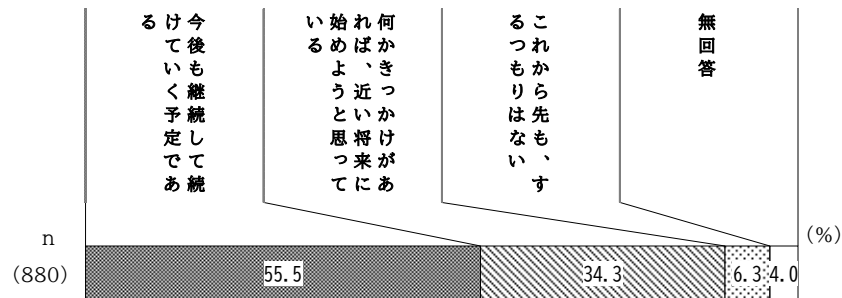
<スポーツ指導者として必要な人(上位5項目)>



②今後のスポーツ・運動の実施意向について

「今後も継続して続けていく予定である」が 55.5%と最も多く、次いで「何かきっかけがあれば、近い将来に始めようと思っている」が 34.3%で、実施意向のある人は約9割となっています。

<今後スポーツ・運動を行う予定>



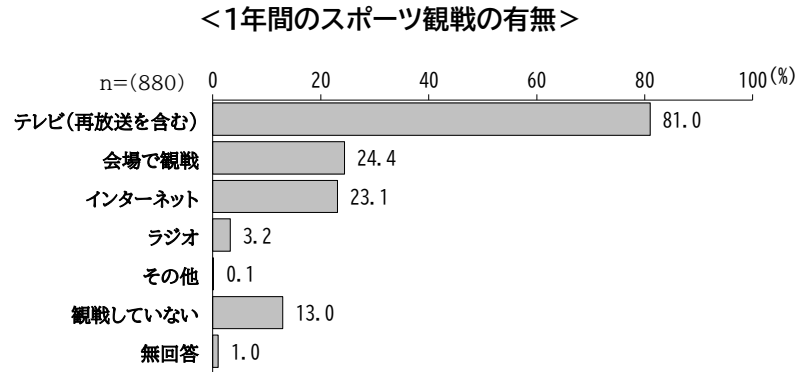
「何かきっかけがあれば、近い将来に始めようと思っている」と回答した人に、どのようなきっかけがあればスポーツ・運動を始めようと思うか聞いたところ、「気軽にスポーツ・運動ができる施設や環境」が 56.0%と最も多く、次いで「余暇の増加」が 32.1%、「経済的余裕」が 27.5%となっています。

<スポーツ・運動を始めるためのきっかけ(上位5項目)>



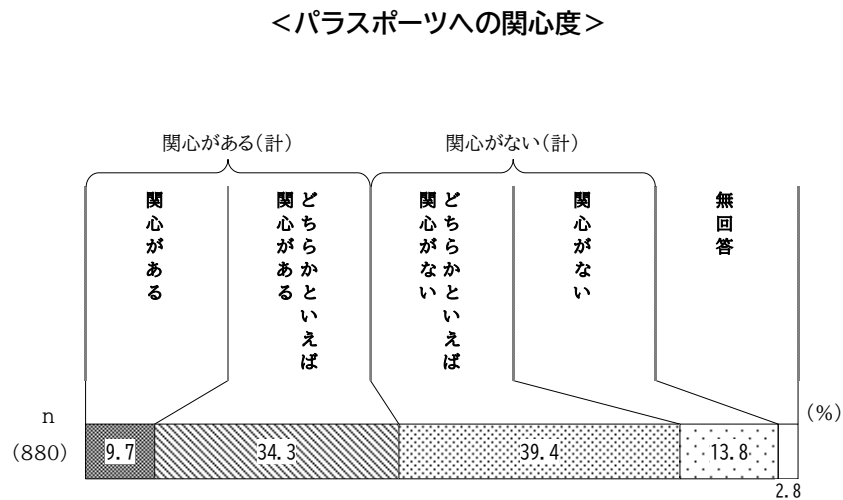
③スポーツの観戦状況について

この1年間で、何かしらの形でスポーツを「みた」と回答した割合は 86.0%となっています。そのうち、「テレビ（再放送を含む）」が 81.0%と最も多く、次いで「会場で観戦」が 24.4%となっています。



④パラスポーツについて

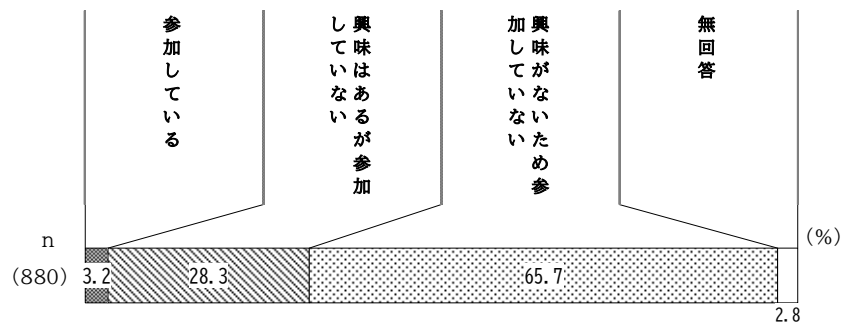
パラスポーツに関心がない（「関心がない」もしくは「どちらかといえば関心がない」）と回答した割合は 53.2%となっています。



⑤スポーツ・運動に関するボランティアについて

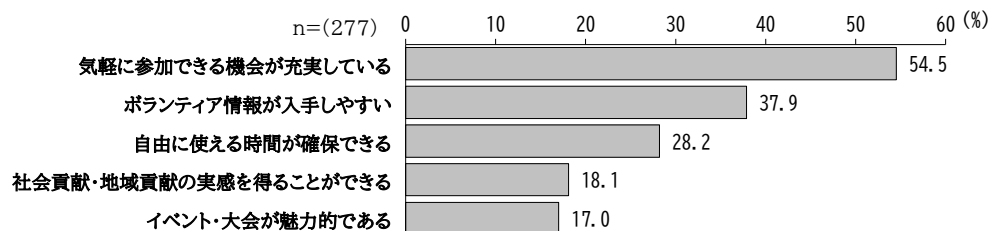
スポーツ・運動に関するボランティアに関心がある（「参加している」もしくは「興味はあるが参加していない」）と回答した割合は31.5%となっています。

<スポーツ・運動に関するボランティアの参加状況>



ボランティアに関心があると回答した人に、ボランティアをするために重要なことを聞いたところ、「気軽に参加できる機会が充実している」が54.5%と最も多く、次いで「ボランティア情報が入手しやすい」が37.9%となっています。

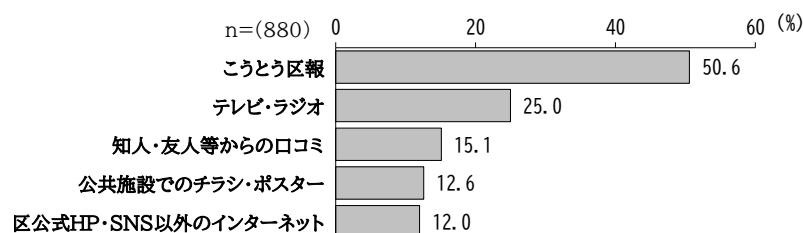
<スポーツ・運動に関するボランティアをするために重要なこと(上位5項目)>



⑥スポーツ・運動に関する情報について

スポーツ・運動に関する情報の入手方法は「こうとう区報」が50.6%と最も多く、次いで「テレビ・ラジオ」が25.0%となっています。

<スポーツ・運動に関する情報を入手している方法(上位5項目)>

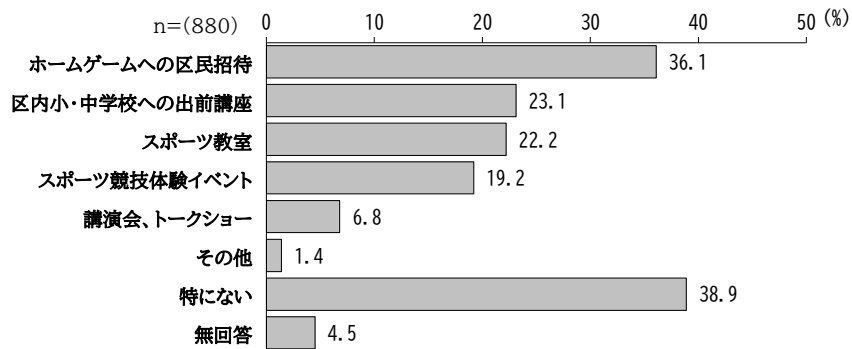


⑦ トップスポーツチーム連携協定団体について

トップスポーツチームの認知度について、いずれかのチームを「知っている」と回答した割合は 26.3%となっています。

また、トップスポーツチームに期待することとして、「ホームゲームへの区民招待」が 36.1%、「区内小・中学校への出前講座」が 23.1%となっています。一方、「特にない」が 38.9%と多くなっています。

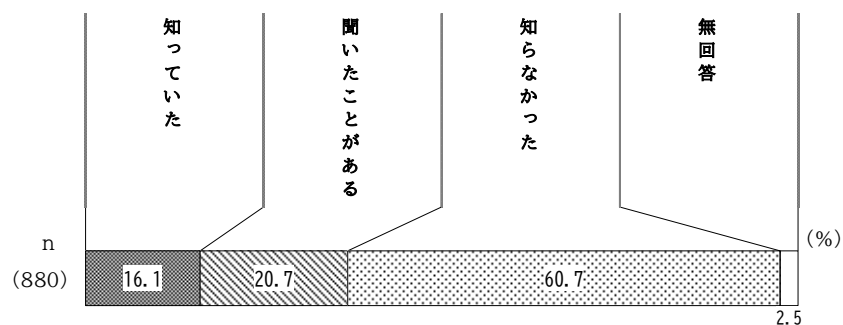
<トップスポーツチームに期待すること>



⑧ 学校部活動の地域移行について

学校部活動の地域移行への取組みを「知っていた」もしくは「聞いたことがある」と回答した割合は 36.8%となっています。

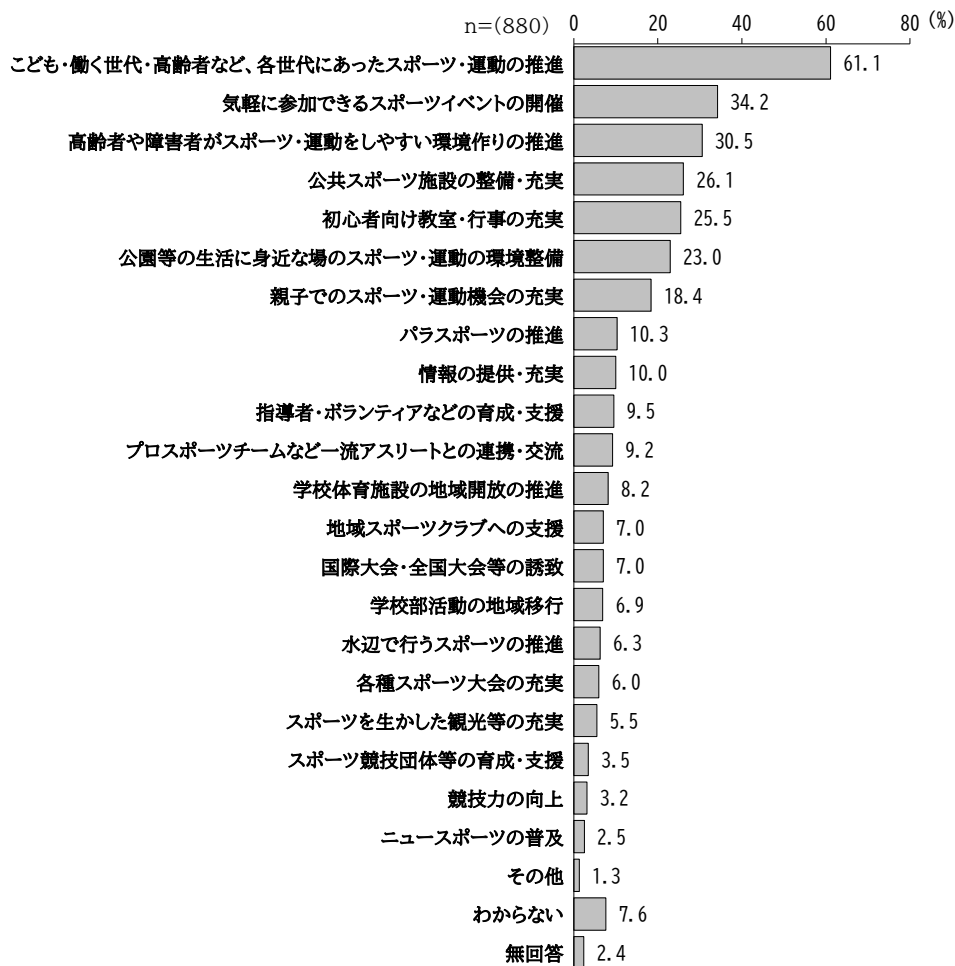
<学校部活動の地域移行への取組みの認知度>



⑨今後のスポーツ振興・推進について

「こども・働く世代・高齢者など、各世代にあったスポーツ・運動の推進」が61.1%と最も多く、次いで「気軽に参加できるスポーツイベントの開催」が34.2%、「高齢者や障害者がスポーツ・運動をしやすい環境作りの推進」が30.5%となっています。

<今後のスポーツ振興・推進について推進すべき施策>

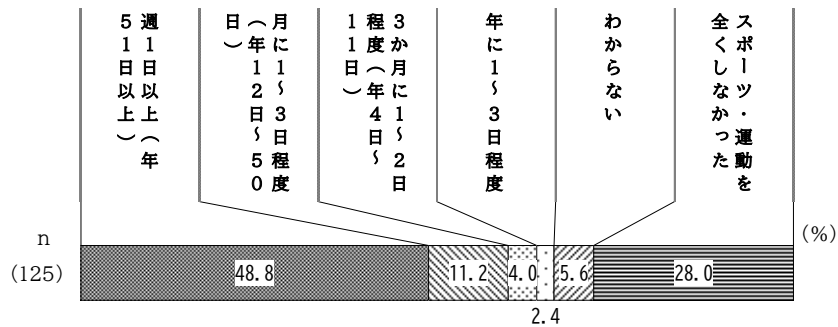


(2) 障害のある方のアンケート

①障害のある方のスポーツの実施状況について

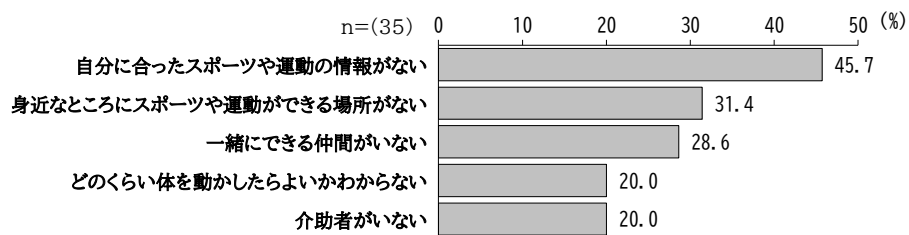
障害者の週1日以上スポーツ実施率は48.8%となっています。一方、「スポーツ・運動を全くしなかった」は28.0%となっています。

<スポーツ・運動の実施頻度(障害者)>



スポーツ・運動を実施していない理由は、「自分に合ったスポーツや運動の情報がない」が45.7%と最も多く、次いで「身近なところにスポーツや運動ができる場所がない」が31.4%、「一緒にできる仲間がいない」が28.6%となっています。

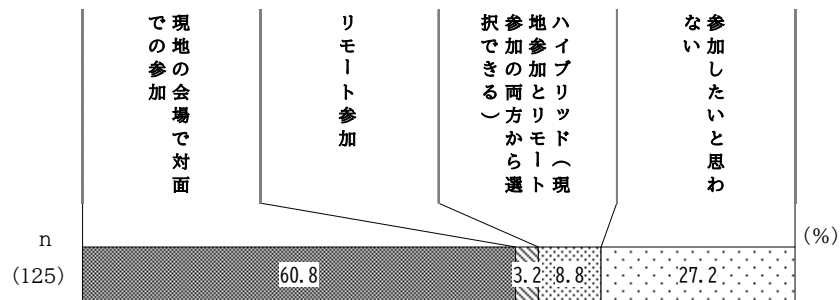
<スポーツ・運動を実施していない理由(上位5項目)>



②障害のある方の今後やりたいスポーツ・運動について

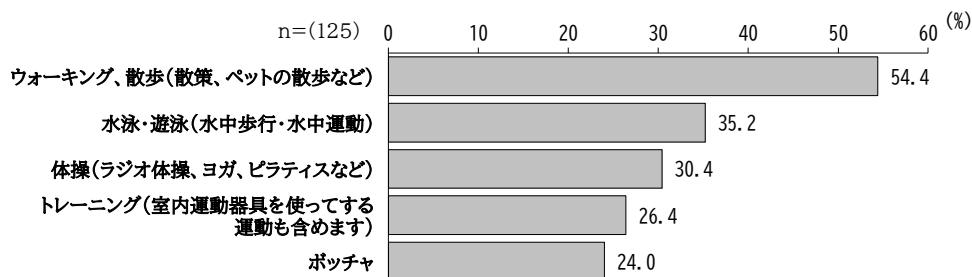
今後、スポーツ・運動に現地参加やリモート参加など、何かしらの方法で参加したいと考えている障害者の割合は 72.8%となっています。

<スポーツ・運動の参加方法>



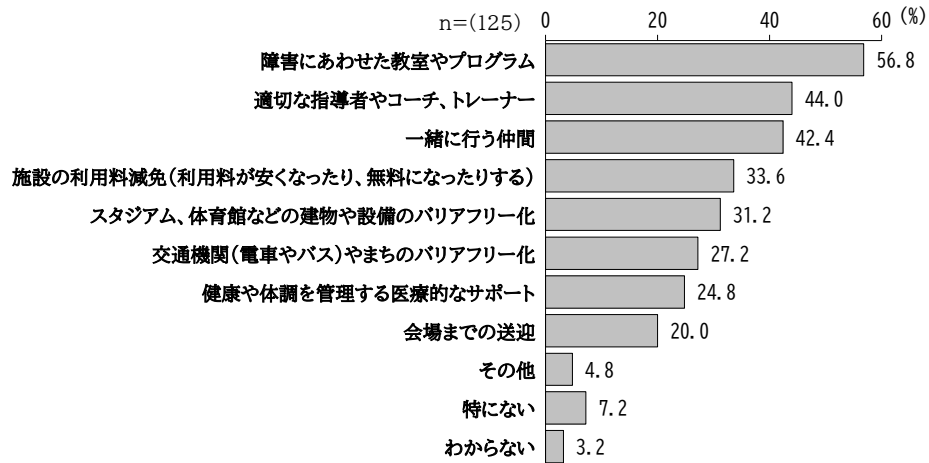
今後やってみたいスポーツ・運動は、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩など）」が 54.4%と最も多く、次いで「水泳・遊泳（水中歩行・水中運動）」が 35.2%、「体操（ラジオ体操、ヨガ、ピラティスなど）」が 30.4%となっています。

<やってみたいスポーツ・運動(上位5項目)>



スポーツ・運動を実施するために必要なことは、「障害にあわせた教室やプログラム」が56.8%と最も多く、次いで「適切な指導者やコーチ、トレーナー」が44.0%、「一緒に行う仲間」が42.4%となっています。

<スポーツ・運動に必要なこと>



2 | 江東区スポーツ推進計画策定までの経過

(1) 江東区スポーツ推進計画改定委員会委員名簿

	氏 名	所属等
1	◎津田 博子	日本体育大学 体育学部 体育学科教授
2	○梶原 克之	江東区スポーツ協会会長
3	吉田 覚	江東区スポーツ推進委員会会長
4	飯川 浩二	第二亀戸小学校校長
5	小林 一志	第三亀戸中学校校長
6	濱田 美穂	江東区カヌー協会所属 パラリンピアン
7	伊藤 善彦	社会福祉法人江東楓の会 理事長
8	山村 喜芳	東陽・木場地域スポーツクラブ
9	伊藤 まゆみ	NPO 法人ななすぼ
10	瀧川 広一	一般社団法人清水建設江東ブルーシャークス ゼネラルマネージャー
11	干場 一広	(株)東京ユナイテッドバスケットボールクラブ 取締役副社長
12	平松 紀幸	公益財団法人江東区健康スポーツ公社 事務局次長
13	越村 友和	江東スポーツ施設運営パートナーズ 屋外スポーツ施設事務所長
14	塚田 智子	公募区民
15	小清水 彩花	公募区民
16	市川 聡	地域振興部長
17	大塚 尚史	政策経営部企画課長
18	菅原 広盛	地域振興部文化観光課長
19	山口 遥	地域振興部スポーツ振興課長
20	伊藤 剛	福祉部長寿応援課長
21	瀧川 久輝	福祉部地域ケア推進課長
22	小林 愛	障害福祉部障害者施策課長
23	河野 佳幸	健康部健康推進課長
24	鳥谷部 森夫	こども未来部こども家庭支援課長
25	木内 苗津子	教育委員会事務局教育支援課長

◎：委員長、○：副委員長

(2) 江東区スポーツ推進計画改定委員会設置要綱

(設置)

第1条 スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第10条第1項の規定に基づく江東区のスポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図る江東区スポーツ推進計画を改定するため、江東区スポーツ推進計画改定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 江東区スポーツ推進計画の改定に関すること。
- (2) 江東区のスポーツに関する施策に係る重要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって構成する。

- 2 委員は、別表に掲げる者のうちから、区長が委嘱又は任命する。
- 3 委員長は、委員の互選により選出する。
- 4 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱又は任命の日から江東区スポーツ推進計画の改定が完了する日までとする。

(運営)

第5条 委員長は、必要に応じて委員会を招集し、会務を総理する。

- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。
- 3 委員長及び副委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。
- 4 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、又は他の方法で意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、地域振興部スポーツ振興課において処理する。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

別表（第3条関係）

学識経験者

江東区スポーツ協会会長

江東区スポーツ推進委員会会長

障害者スポーツ団体関係者

障害者団体関係者代表

地域スポーツクラブ代表

トップスポーツチーム連携協定団体代表

江東区区民体育館条例(昭和50年3月江東区条例第46号)第2条に規定する区民体育館、江東区営運動場条例(昭和43年7月江東区条例第24号)第2条に規定する運動場、江東区夢の島総合運動場条例(平成6年3月江東区条例第14号)第2条に規定する夢の島総合運動場及び江東区営プール条例(昭和42年7月江東区条例第22号)第2条に規定するプールに係る指定管理者の代表

公募区民

地域振興部長

政策経営部企画課長

地域振興部文化観光課長

地域振興部スポーツ振興課長

福祉部長寿応援課長

福祉部地域ケア推進課長

障害福祉部障害者施策課長

健康部健康推進課長

こども未来部こども家庭支援課長

教育委員会事務局教育支援課長

区立小学校長

区立中学校長

その他区長が必要と認める者

(3) 江東区スポーツ推進計画改定委員会開催経過

日 程		議 題
第1回	令和6年 5月28日（火）	・ 江東区スポーツ推進計画の概要と進捗状況について ・ 江東区スポーツ推進計画の改定について ・ 区民アンケートの実施について
第2回	令和6年 8月8日（木）	・ 区民アンケート結果の速報値について ・ 計画の体系（案）について
第3回	令和6年 11月5日（火）	・ 江東区スポーツ推進計画（令和7年度～11年度）の素案（案）について
第4回	令和7年 1月27日（月）	・ 江東区スポーツ推進計画（令和7年度～11年度）素案に対するパブリックコメント結果について ・ 江東区スポーツ推進計画（令和7年度～11年度）の修正素案（案）について
第5回	令和7年 2月27日（木）	・ 江東区スポーツ推進計画（令和7年度～11年度）（案）について

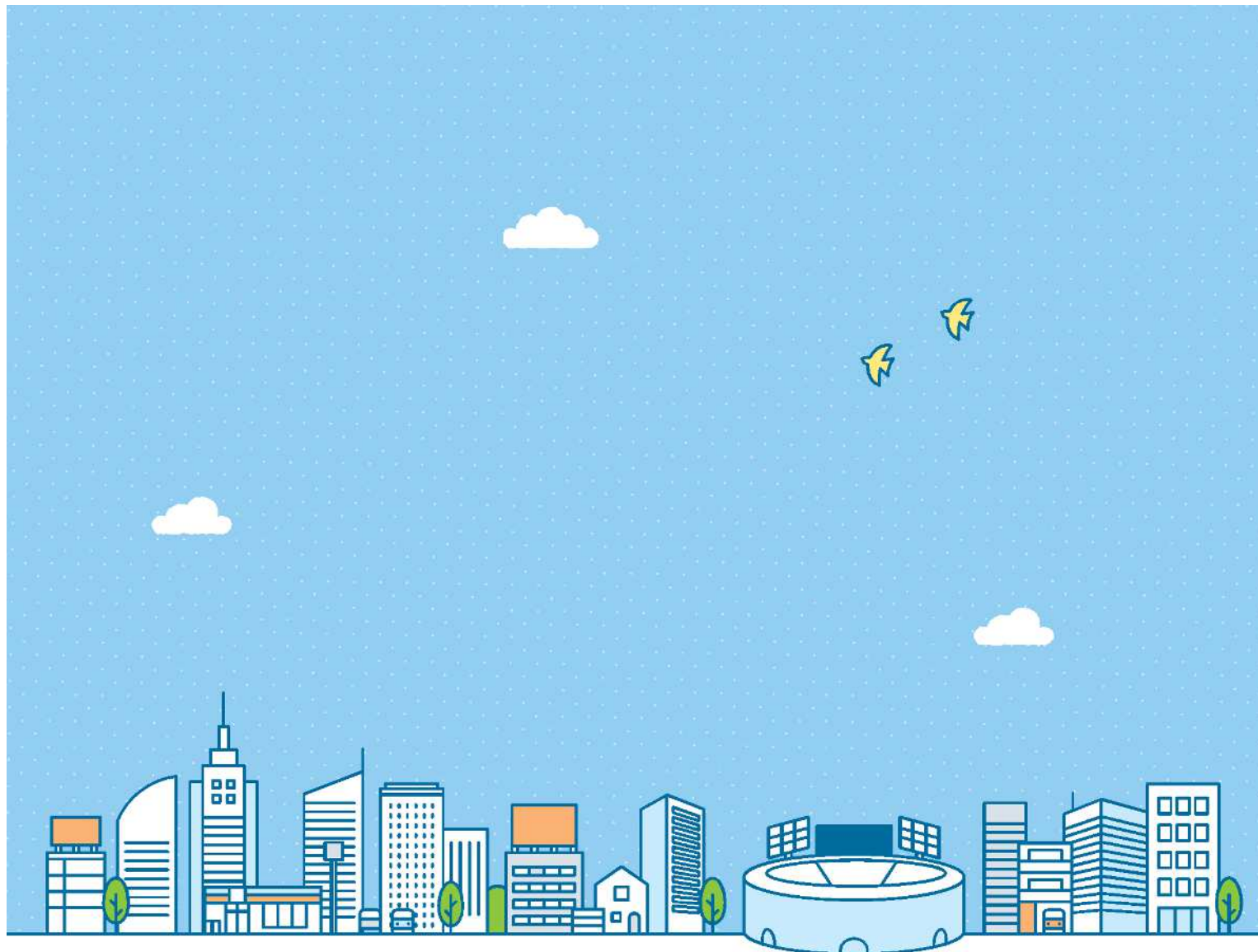
(4) パブリックコメントの実施結果

募集期間	令和6年12月1日～12月27日
周 知	区報（12月1日号）・区ホームページにて周知
配架場所	区ホームページ、こうとう情報ステーション、スポーツ振興課窓口 区立スポーツ施設（各スポーツセンター・夢の島競技場）
提 出 数	11名 （区ホームページ：9名、FAX：1名、区立スポーツ施設：1名）

江東区スポーツ推進計画(令和7年度～11 年度)

令和7年3月発行 印刷物登録番号(6)74 号

編集発行：江東区地域振興部スポーツ振興課
東京都江東区東陽 4-11-28
電話 03(3647)9111(代表)



第3期

江東区 スポーツ推進計画

令和7年度～令和11年度